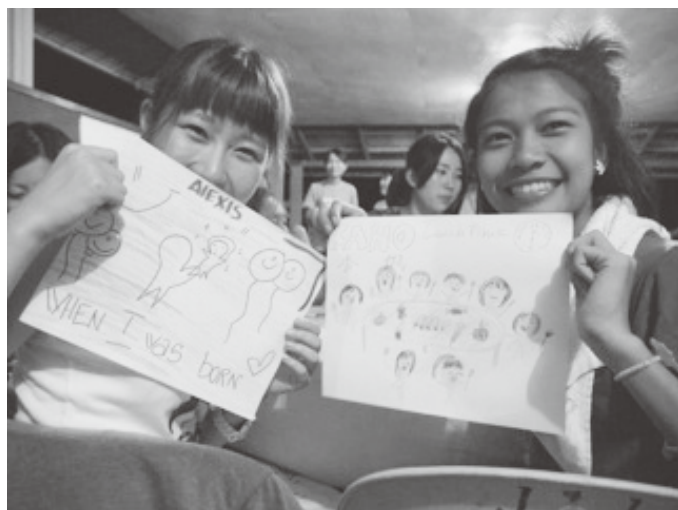




アクセス

年次報告書

2013

一人ではどうにもできない貧困、
だから一緒にかえていく。

We walk together for the world without poverty.

アクセスとは

アクセスは、フィリピンと日本で

貧困問題の解決に向けて活動する国際協力 NGO です。

フィリピンの貧しい人々も、日本で暮らす人々も、ともに地球市民として

「貧困をはじめとする社会的な課題を、一人ひとりが主体となって解決し、

より良い社会を創っていく」ことをめざしています。

Aspiring Citizens for Community Empowerment with Sunny Smile

Contents

目次

| 5分で知る、2013年度のアクセス

事業概要/組織図	3
2013年度 活動ハイライト	4
2014年度、ご参加、ご協力いただきたい活動	7

| 私たちのめざすもの

「誰も犠牲にしない豊かな社会」をめざして	8
私たちの活動の柱(要約版)	9
エンパワメントと組織化	10

| 2013年度事業報告

アクセス総評	12
フィリピン事業報告	14
日本事業報告	18

| 2013年度決算報告

27

| 2014年度事業計画

30

会員・寄付者／ご支援いただいた助成団体／ ご協力いただいた企業・学校・団体等／受賞歴／ 加盟団体・ネットワーク	32
役員・スタッフ・ボランティアスタッフ	33
アクセスのあゆみ 1988-2014	34

年次報告書に込めた想い

アクセスの活動にご参加・ご協力をいただいている皆さまに、これまでの活動の成果をご報告すると同時に、これからの活動の展望や計画を具体的にお伝えすることを目的に、本報告書を作成いたしました。お読みいただく全ての皆さまに、アクセスの活動の成果や課題をご理解いただければと願っています。

「私たちのめざすもの」(P8～10)では、アクセスが何をめざして活動をすすめていこうとしているのかということを明らかにしようと試みました。活動の背景にある私たちの想いや考えについても、お読みいただければ幸いです。

「私の夢」

本報告書の表紙に使われている写真は、フィリピンと日本の若者が、「私の夢」をテーマに描いた絵を交換した時のものです。裏表紙の絵は、フィリピンの若者が描いた絵と、それに添えられたメッセージです。

フィリピン事業概要



■ピナツボ

1991 年に起こったピナツボ火山噴火の被災地区。特に土石流堆積の被害が大きかったパンパンガ州ボーラック町ミトラで、教育支援事業と、農業を中心としたコミュニティ復興事業を進めています。



■ペレーズ

小さな島の一画にある、貧しい農漁村地区ペレーズ。農業と漁業で生計を立てる人々が大半を占めています。ここでは1999 年より、教育支援、フェアトレード、青年育成、マイクロファイナンスなどの支援活動を行っています。



■パヤタス

マニラ首都圏から出るゴミの集積所の1つであるパヤタスで、1994 年に幼稚園を建設。2013 年より、その運営支援を行っています。



■アペロクルス

マニラ首都圏内にある川沿いのスラムの1つであるアペロクルスでは、1997 年より、教育支援を行っています。



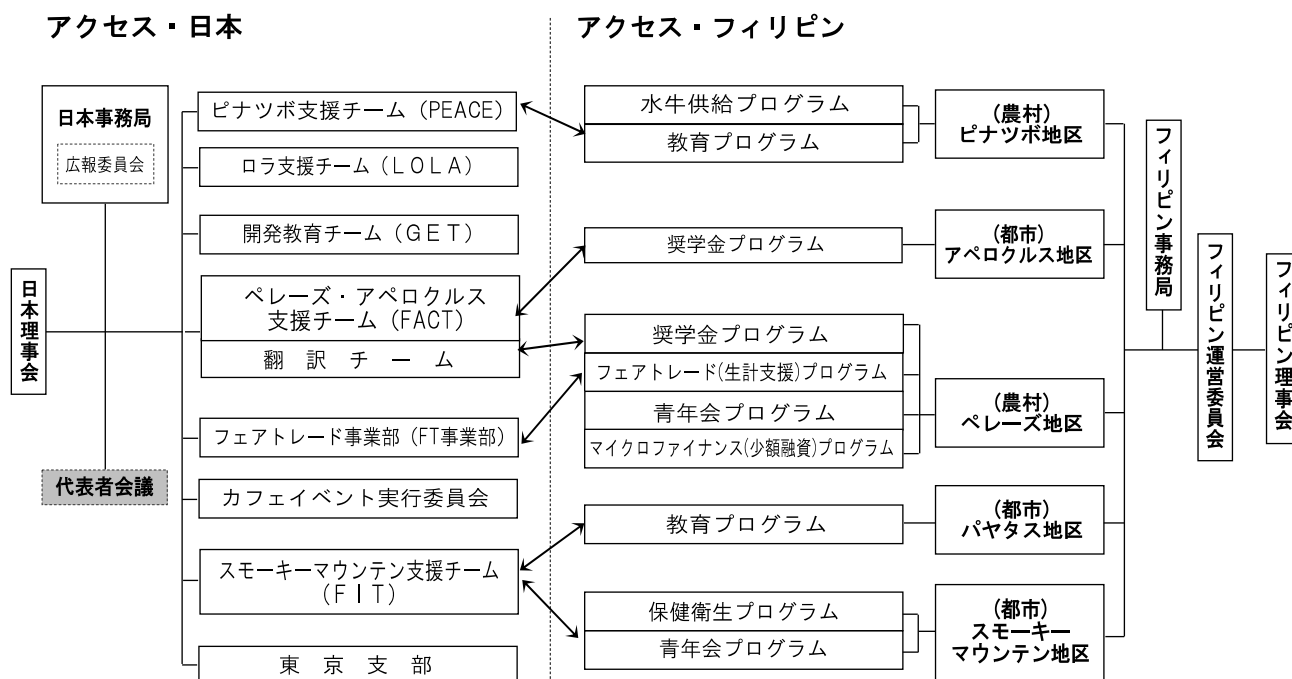
■スモーキーマウンテン

マニラ首都圏から出るゴミの集積場であるスモーキーマウンテンには、ゴミ拾いで生計を立てる貧しい人々が約 6500 人暮らしていました。2005 年より、保健衛生事業、青年育成、女性支援を実施。2014 年 6 月にコミュニティが取り壊されたため、事業を終了しました。



組織図

2014 年 9 月時点



*アクセス・日本とアクセス・フィリピンは、それぞれの国に理事会をもち、それぞれ法人格を持っていますが、実質的には2つで1つの国際協力NGOです。2009年度からは国際理事会を設置し、単一のNGOとして意思決定を行っています。



フィリピンでは、6～11歳の児童のうち約10%が就学できず、小学校就学児童の約30%が、卒業までに経済的な理由等で中途退学しています。（教育省 2010 年度統計より）

2013 年度 活動ハイライト

アクセスでは、事業地の中でも特に貧しい家庭の子どもたちを対象とした奨学金プログラムを実施して、公立学校への就学をサポートしたり、教育施設そのものがなかった被災地の村に学校を建設してその運営を支援したりしています。

アクセスは2013年度、 272人の子どもたちの 就学を支援しました

■奨学金プログラム 127 名

ベレーズ(P14)、アベロクルス(P17) 前年度比+50 名

■小学校運営支援 83 名

ピナツボ火山噴火被災地(P16) 前年度比+22 名

■就学前教育施設支援 62 名

ピナツボ火山噴火被災地 (P16)、パヤタス (P15) 前年度比+32 名

「小学校卒業まで学べるコミュニティ」を実現！

1991 年のピナツボ火山の大噴火から 16 年ものあいだ教育施設が一切なかったミラ地区。最寄りの小学校までの往復交通費が1日の収入の半分を超えるため、子どもたちの大半が学校に通っていませんでした。そんな現状を見た長年のアクセスの支援者のお二人が、多くの方に支援を呼びかけ、2008 年に校舍建設が実現、ミラ小学校分校が開校しました。

その後、数年間はミラ小学校分校に先生は一人しかおらず、3 学年一緒に複式学級でした。保護者は先生の増員を教育省にかけあいましたが、「生徒 40 人につき、先生 1 名と決まっている」ため、実現しませんでした。

そこで、しばらくの間だけ近畿労働金庫からの支援金を活用して先生を増員することにしました。おかげで 2012 年度に 4 年生が開校され、その結果として生徒数も増えたため、教育省は 3 人目の先生の派遣を決定。このことが弾みとなり、2013 年度

からは 4 人目の先生の派遣が決まり、5 年生の開校に至りました。2014 年頭には、学年増設によって課題となっていた教室不足を解消するため、教育省が新校舎の建設を開始。こうしてついに、2014 年度からミラ小学校分校は 1～6 年生まで全学年を受け入れられる小学校になったのです。

日本からの支援に触発され、子どもたちの保護者、地域の人々、行政の姿勢が変わってきており、そうした大人たちの努力の結果として、地域の教育環境が改善しています。

「小学校卒業まで学べる」という地域の夢がついに実現し、2015 年 3 月の「被災後初の卒業式」に、期待が高まっています。2014 年は、社会教育センターを建設し、幼児教育と女性の自立支援に力を入れていきます。（詳細は P16、P25 をご覧ください）

2014年度は、355名の就学を支援します！

フェアトレードの新プロジェクトを開始

小さな夢を叶えるために生まれた、15 点のカード



細かい手作業をテキパキとこなす生産者の様子に、村の子どもたちは興味津々です。

「子どもに十分なミルクを飲ませてあげたい」
「先生になるために、進学したい」

そんな夢を持つお母さんたちや若者を応援しようと、2013 年頭からフェアトレードのグリーティングカード(クリスマス・誕生日カードなど)の生産・販売を開始しました。

職業の選択肢が非常に限られている農漁村ペレーズ地区で、一人でも多くの人に働くチャンスを提供し、努力すれば夢が叶えられる地域づくりをめざしカード生産事業は始まりました。

2013 年度は、15 点のカードを開発し、5 人の生産

者が技術を習得しました。生産者グループの名前は、メンバーの想いをこめて、「バンガラ」(フィリピン語で「夢」)と名づけられました。2014 年度は更にデザイン数を増やし、日本での取引先拡大にも力を入れて取り組んでいきます。

女性の働く場づくりとして、2001 年から続けているココナツ殻製品の生産・販売事業については、14 種類の新商品を開発し、フェアトレード商品として日本での販売を継続しました。また、2010 年から取り組んでいるマイクロファイナンス(少額融資)については、実施エリアを 2 村から 5 村に拡大し、貧しい家庭の主婦 80 人に、養豚や炭作りなどの小規模事業を行う資金を低利子で貸付けました。

火災、台風の被災者へ、44 万円の救援・復興支援

2013 年度は、アクセスの事業地 2 ヶ所(アペロクルス／スモーキーマウンテン)で大きな火災が発生し、皆さまにご協力いただいて、救援活動を行いました。また、11 月には大型台風 30 号(ハイエン)によってフィリピン中部が甚大な被害を受けたため、現地 NGO に委託する形で、救援・復興活動を行いました。



アバカ麻ハンディクラフト製品の生産者の生活再建を目的に、アバカ麻の植林事業を支援しました。

アペロクルス火災

2013 年 7 月 24 日発生

【被害規模】275 世帯

【救援活動】

米 5kg 配給 30 世帯

生活雑貨配給 100 世帯

* 2012 年度に発生した火災の救援基金の残額を活用して、救援活動を行いました。

スモーキーマウンテン火災

2013 年 9 月 21 日発生

【被害規模】約 350 世帯(死亡 4 人)

【救援活動】

ミルク配給

食料品配給 533 世帯

* 救援キャンペーンや街頭募金により寄せられた 101,616 円の寄付で、救援活動を行いました。

台風 30 号 2013 年 11 月 8 日発生

【被害規模】約 1600 万人(死者 6000 人以上)

【救援活動】トタン板配給 67 世帯、食料品配給 750 世帯、学用品配布 355 人
簡易医療ケア 200 人、トラウマ克服ケアの実施者育成研修 22 人

【復興事業】台風でなぎ倒されたアバカ麻の植林事業

台風 30 号の救援キャンペーン、街頭募金では 1,140,503 円が寄せられ、そのうち 33 万円で救援・復興支援事業を実施。現地 NGO 等 3 団体と連携し、レイテ島、パナイ島、セブ島で、支援活動を行いました。2014 年度は、残金 81 万円で復興支援事業を行います。

Participation

2013 年度 活動ハイライト

出会い

貧困問題に触れ、感じ、語り合う

スタディツアーに43人、カフェイベントに74人が参加



貧困の中でもがき苦しみ、努力し、生き抜いている人々と出会うフィリピン・スタディツアーと、そうした現実を日本で少しでもリアルに感じてもらうためのカフェイベントを、年間通して開催しました。

ツアーやイベントは、貧困の現状を理解してもらう場であると同時に、「よりよい世界、社会を創りたい」と願う人々が出会う場でもあります。ツアーでは、物質的な豊かさと精神的な豊かさについてなど、たくさんの興味深いテーマで深く語り合い

ました。イベントでは、貧困家庭の家計のやりくりを疑似体験するワークショップなどを行い、貧困をなくすために何ができるのかを考えました。こうした取組みの結果、ボランティアやサポーターとしてフィリピンを応援する「一歩」を踏み出す人を増やすことができました。

(上写真:京都市伏見区の Vegans Café and Restaurant で開催した、カフェイベントの様子) (P18 の関連記事も、ぜひご覧ください。)

参加

800人以上が活動に参加

古本・CD・書き損じハガキなどの寄付、会員・サポーターとして協力、ボランティアとして活動など、参加が広がりました

ココロ便(中古の本・CD・DVD・ゲームの寄付)	41 人
書き損じハガキ	52 人
会員・サポーター	646 人
ボランティアスタッフ	約 100 人

(P18-19 の関連記事、P32-33 の協力団体・個人リストもご参照ください。)

(右写真) アクセス事務所近くの喫茶うずらでは、本・CD などを収集するボックスや、台風 30 号の被災地支援のための募金箱を設置していただきました。



協力・連携

企業、学校、労働組合、カフェなど 連携が進んでいます。

2010 年から始まった近畿労働金庫との「心のそしな」プロジェクトに続き、ブックオフコーポレーション株式会社の協力による「ココロ便」が 2013 年度よりスタート。このほか、生活協同組合や、5 つの労働組合・連合、5 軒の飲食店、2 軒の衣料品店、2 つの中学校などに、アクセスの活動に協力していただきました。(ご協力いただいたグループ・企業等の一覧を、P32 に掲載しています。)

25周年

2013 年は、**アクセス創設 25 周年**でした。

ボランティアスタッフの協力のもと、2014 年 2 月 9 日に記念フォーラム & パーティを開催。フォーラムには 95 名、パーティには 69 名にご参加いただき、25 年の歴史を振り返るとともに、「貧困のない世界をどう創っていくか」について、たくさんの方とともに考えることができました。



2014年度、 ご参加、ご協力いただきたい活動

アクセスでは、フィリピンの5つの事業地でさまざまな支援事業を行い、日本でも多くのイベント・企画を行っています。その中でも、2014年度特に力を入れて取り組んでいきたい活動、多くの方にご協力いただきたい部分を、ポイントを絞ってご紹介します。ぜひ、ご協力ください。また、これ以外にも、お力を貸していただける場合には、ぜひアクセス事務局までご連絡ください。

【新企画】 フィリピンの 子どもたちに 会いに行く旅

2014年
11月19日-24日
5泊6日



- ☑ 一度はフィリピンに行ってみたいけど、長い休みはとれない…
- ☑ フィリピンで出会った子どもたちに再会したい！
- ☑ 支援する奨学生と会って話がしてみたい

そんな方々におすすめのスタディツアーを企画します！

社会人の方にも参加していただきやすいよう、5泊6日と短めの日程で、秋の連休時期に開催します。また、海外に不慣れな方も過ごしやすい、トイレ・バス・エアコン付の宿舎を手配。パヤタス地区の幼稚園の児童や、ペレーズ地区の奨学生とたっぷり交流いただける旅です。（詳細はお問合せ下さい）

学校で、近所で、職場で 子どもたちへの支援を広げて下さい！

ご自宅に眠っている「本」「CD」「DVD」「ゲーム(本体・ソフト)」「書き損じハガキ」「未使用金券」「ペソ現金」

ぜひ、アクセスにお寄せください。
すべて、フィリピンの子どもたちや女性たちへの支援に役立てることができます！

また、写真のような収集ボックスを、学校や職場などでご設置いただき、周囲の方と一緒に、フィリピンを応援してください！
チラシや、ミニポスターなどは、アクセスよりお送りします。
設置できそうな場所が思い浮かびましたら、お気軽にアクセス事務局までご相談ください。



50人の子どもたちに奨学金を！ 周囲の方にご紹介ください。

2015年度の新学期(6月)までに、新たに50人の子どもたちに奨学金を提供し、安心して学校に通い続けられるようにすることをめざしています！
ご希望の方には、資料をお送りしますので、周囲の方にもぜひご案内ください。

10年後のビジョンを描く ご参加ください！

2013年度より、「アクセスの10年後のビジョン」について議論しています。今後、会員・サポーターの皆さまとともに考える場も設けていく予定です。詳しくは、ニュースレター「となりのアジア」や、メールマガジン、Facebook などでご案内いたします。

access
市民のネットワークが貧困のない社会を創る

【お問合せ・ご相談】

TEL/FAX 075-643-7232 Eメール acce@sannet.ne.jp

私たちのめざすもの 「誰も犠牲にしない豊かな社会」



■痛みを和らげながら、原因にも目を向ける

アクセスのミッション（使命）は、3つです。

1つ目は、貧しい人々が今まさに直面している貧困の痛みを和らげようとする活動（教育、保健衛生、生計面などの支援）です。2つ目は、貧困の原因を明らかにしながら、貧困をなくそうとする人々を増やすことです。3つ目は、それら2つを実践し、よりよい社会を創っていく力を、日本人・フィリピン人ともに身につけてもらうために、協力できる場を提供することです。どれか1つ欠けても、貧困をなくすことはできないと考えています。

■国境を越えて思いやりあう関係を築く

アクセスの奨学金プログラムは、週300円（年間15000円）で一人の子どもを小学校に通えるようにする、教育里親制度です。奨学金を受給したとしても、その家族がすぐに貧困から抜け出せるわけではありません。しかし、食事さえ満足に準備できないような時であっても、「日本で応援してくれている人がいるんだから、何とか頑張らないか」と感じる人は多く、支援者の存在が心の支えとなっています。他方、日本の奨学金サポーターの中には、「フィリピンの子どもたちから届く手紙が励みになり、辛い仕事も頑張れます。」とおっしゃる方もいます。単なる経済援助ではなく、「国境を越えて思いやりあう関係を築くこと」ができればと思いながら、プログラムを実施しています。

貧困の中で生きるとは、次々と問題が押し寄せる毎日を生き延びるということです。私たちNGOにそれら全ての問題を解決することはできませんし、問題を解決していくのは問題の中で生きる人々自身です。そんな中、「希望を持ち、前を向いて生きていこう」と思えるよう支援するのが、私たちNGOの役割だと考えます。

■ペレーズの漁獲量減少と日本

アクセスの事業地の1つペレーズ地区の漁師は言います。「20

年前は数時間で何キロもの魚がとれた。でも今は、8時間漁を続けてもせいぜい2〜3キロだ。」ペレーズ近辺の漁獲量減少の最大の原因は、日本、中国、台湾、韓国などから来る大型漁船による乱獲と言われています。実は私たちは、知らず知らずのうちにフィリピン近海でとれた魚を、日本で口にしているのです。

「より便利で、より安く、より質の高い暮らし」を求める日本のライフスタイルは、見えないところで、ほかの国の人々の生活に影響を与えています。こうした日本のライフスタイルを見直し、どうすれば「誰もが人間らしく幸せに暮らせる世界」、「見えないどこかで誰かを犠牲にしない世界」を創れるのか、考えていく必要があるのではないのでしょうか。

■「誰も犠牲にしない豊かな社会」をめざして

日本は中流層の多い経済大国から、格差社会に転落しようとしています。貧困問題は南の国の問題だけではありません、日本でも子どもの貧困・女性の貧困の問題が深刻化しています。そうした中で、世界の見えない誰かを犠牲にすることなく、例えば私たちが直接かかわっているフィリピンの貧しい人々とともに、より多くの人が幸せを感じられるような社会や世界のあり方について議論し、実践していくことがますます必要になっています。

原始時代のような暮らしに後戻りするのではなく、しかし便利さや物質的な豊かさばかりを追いかけるのでもない。個人の多様な価値観を尊重しながらも困った時は助け合えるような、新しい形の「豊かな社会」「豊かな世界」が必要になっているのではないのでしょうか。

アクセスは、経済的な貧しさを克服しながら、新しい形の「豊かな社会」を築こうとする人々が出会い、協力できるような場でありたいと考えています。そうした協力が国境を越えて広がり、希望を持って生きられる人が一人でも増えるように、皆さまとともに活動を創っていきたいと思います。

私たちの活動の柱

活動の柱1

エンパワメントという考え方

なかまと出会い、協力し、力をつけ、
ともに課題を解決する

私たちは、貧困問題を解決する主体は、貧困の中で生きる住民自身であると考えています。その上で、住民自身が自らを組織し、協力して自分たちの抱える問題を解決する力を身につけること(エンパワメント)を支援することが、NGOの主要な役割であると考えているのです。

具体的には、教育支援、保健衛生支援、生計支援、青年育成などのプログラムを通じて生活改善をすすめながら、プログラム参加者の組織づくりを行い、活動の一部または全部を住民自身の手で運営できるようになることをめざしています。また、各地域の貧しい人々が抱える問題(都市貧困地区であれば強制立ち退きの問題、農村であれば大土地所有制の問題など)にも取り組むことのできる、地域全体をカバーする住民自身によって構成された住民協議会の建設もめざしています。一人ひとりの人間が持つ力は小さくても、得意分野を活かし、支えあい、学びあい、協力する場となる組織があれば、貧困に立ち向かうための大きな力を生みだせる。そう信じて、組織づくりを通じたエンパワメントを大切にしています。

私たちが創ろうとする住民組織とは

私たちが最貧層の人々と共に創り出そうとしている、貧しい人々自身の組織(People's Organization=PO)は、次のような力を持つ組織です。

1. 民主主義を実践する力
2. 事業を運営する力
3. コミュニティ内のより貧しく、より抑圧されている人々を優先することのできる力
4. コミュニティの内外を問わず、人権・戦争(支配者による暴力的支配)という諸問題に取り組むことのできる力
5. 他のコミュニティ・他の地域・他の国の民衆の貧困・人権・戦争(支配者による暴力的支配)への取り組みに開かれ、連帯することのできる力
6. 地方や中央政府と交渉し、場合によっては闘うことのできる力

他方、「北」(先進国)の市民のエンパワメントも、NGOの重要な役割であると考えています。「南」(発展途上国)の貧困問題は、16世紀以降の近代植民地支配に始まる「北」による「南」の支配と搾取の結果です。この地球にある限られた資源や土地を、より多く手に入れることができる、またはより多く利用できる国や人々だけが豊かになり、それらを奪われたり自由に利用できない国や人々は貧しさを強いられます。貧困問題を解決するには、そうしたアンフェアな世界の仕組みを変えていく必要があります。

そして、そうした世界の仕組みを変えていくためには、「南」の貧しい人々の努力だけでなく、「北」の市民の自覚と参加が不可欠です。経済的に豊かであっても、社会を変える力をまだ十分に持たない私たち

「北」の市民が協力できるネットワークを創り、議論と実践の場を提供することでエンパワメントする。それもまた、NGOの任務だと考えます。

アクセス日本のボランティア活動の促進に重点を置いた活動は、まさにその実践です。アクセスの目的に沿いつつも、それぞれ異なるテーマや課題を掲げたチームが組織され、独自の会議と活動を持って、自分たちで決めたことを自分たちで実行しています。現在、10の支援チーム・事業部・支部・委員会が活動を継続しており、チームメンバーとして登録されているボランティアスタッフの数は90名を超えています。

私たちにとってボランティアスタッフとともに進める活動は、日本の市民のエンパワメントの一つの形であり、それ自身が私たちの会の目的となっています。そして、ボランティアスタッフ自身がさらに多くの人々に働きかけ、エンパワメントを進めているのです。

活動の柱2

地球市民という考え方

「日本人」「フィリピン人」という区別を越えて
「地球市民」として考え、行動する人を増やす

貧困問題に取り組むとき、「『南』の問題は『南』の人々が解決するのであり、『北』の人々はそれを外部から支援するだけである」という考え方があります。しかし私たちは、たとえ「南」の地域で発生している問題であっても、「北」の市民も「地球市民」として「南」の市民と同じように問題に主体的に取り組むことができるし、取り組むべきであるという考え方をしています。

1980年代以降、グローバリゼーションが急速に進展・深化し、多国籍企業化による資本の「北」から「南」への移動と、移民・出稼ぎ労働者の「南」から「北」への移動が歴史的規模で進行しています。1990年代以降の日本のNGO活動の発展も、こうした文脈の中にあります。そうした中で、「南」と「北」の市民同士の、政府や企業を媒介としない直接的なつながりが、国境を越えて質・量共に発展しています。日本の社会や政府の問題は日本人の問題、と済ませてしまうことのできない状況が生まれつつあるのです。フィリピンの社会や政府の問題も同様です。

こうした社会背景のもと、アクセスはスタディーツアーをエンパワメントと地球市民形成のための重要な環としてとらえ、力を入れて取り組んできました。また、フィリピンで日本人インターンを積極的に受け入れ、支援チーム・事業部も、年に1~2度フィリピンのプロジェクト地を訪れ、支援している住民との交流や担当スタッフとの会議を直接行ってきました。アクセスの組織自身も、形式的には日比それぞれの国家の法律に基づきそれぞれの国に法人を組織していますが、実質的には単一の国際NGOとして活動を行っています。

こうして、私たちは「南」と「北」で市民のエンパワメントを進めながら、国境や国籍を超えて同じ目的を共有する「地球市民」という意識でたくさんの人々をつなげ、市民同士の直接の協働関係を築くことを通じて、貧困問題を解決しようとしています。

※本文書は要約版です。「私たちの活動の柱」全文は、

<http://www.page.sannet.ne.jp/acce/pdf/vision.pdf>

で、ご覧いただけます。

エンパワメントと組織化

「エンパワメント」とは、アクセスが貧しい人々の支援をする際、もっとも重視している考え方です。

エンパワメントには様々な定義がありますが、簡単に言えば、

「人々の持つ潜在能力をひきだし、自ら問題を解決できるような力をつけること」と言えます。

自立支援としてのエンパワメント

貧しい人々の生活状態をよくしたいと思ったとき、支援の仕方にはさまざまな方法があります。1つは、食事を提供したり、着るものを提供したり…今まさに足りていないものを、現物で提供するという支援です。これは短時間ででき、成果もわかりやすい。けれども、こうした支援には、支援に依存し、自分の力で貧困から抜け出そうという努力をしなくなる危険性がつきまといます。

そこで多くのNGOが行っているのが、「問題を解決する手段を教える」という支援です。貧しい農民には、より収穫を得られるような農法を教える。子どもたちには、将来、安定した仕事につきやすくするために、教育の機会を提供する。働きたくても仕事が見つからない人には、商品として売れる品物を作る技術を身につけてもらえるよう訓練する。こうして、それぞれの人が直面している課題について、その課題を解決するための力を身につけられるような支援(エンパワメント)を行うのです。アクセスのプログラムのほとんどが、これに当てはまります。しかし、アクセスはそれだけで終わりたいと考えています。

「協力する力をつける」エンパワメント

ある子どもを大学進学まで支援し、卒業後に一流企業に就職できたしましょう。その子は家族のために立派な家を建て、携帯電話やコンピュータを買って、不自由ない生活を実現することができるようで、でも、その子が他の貧しい家族については気にかけないとしたら…？フィリ

ンでは、家族・親戚間での助け合いはとても大切にされていますが、血縁関係にない人々同士が助け合ったり、みんなで協力して問題を解決しようとする姿勢はそれほど強くありません。むしろ、貧しさから抜け出そうと、「家族や親戚のために、他を蹴落としてでも自分はチャンスを掴まなければ」と努力する人が多いといえるかもしれません。

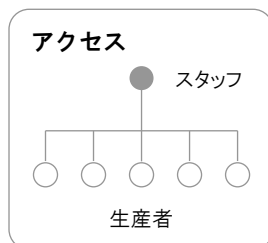
そんな社会の中で、同じ苦勞を抱える人々どうしが、力をあわせて共通の課題に立ち向かっていけるようにしていきたい、というのがアクセスの考えです。たとえば奨学金プログラムでは、子どもたちに教育の機会を提供すると同時に、保護者会を組織しています。保護者会では、子どもたちの多くがお腹をすかせたまま授業を受けているという現状をなんとかしようと、保護者が交代で給食を調理し、届けるという活動を始めました。個人では解決できない問題について、共通の課題を抱えた保護者が自らを組織し、協力し合い、問題解決のための取り組みを皆で実施し、継続できるようにしていく。アクセスは、そうした活動に必要な資金を調達し、その事業の運営・組織の運営にあたって必要なさまざまなスキルを保護者が身につけられるよう、サポートをしています。アクセスでは、こうした集団に対するエンパワメントに力を入れています。

もう1つ、アクセスがめざしているのは、貧しい人々に地域ぐるみで問題を解決しようとする力を身につけてもらおう、ということです。教育や仕事、保健衛生など、特定の分野ごとの事業運営と並行して、地域全体が抱える課題(大土地所有制や、立ち退きの問題など)に取り組める組織をつくることをめざし、活動を行っています。

フェアトレードプログラムの場合

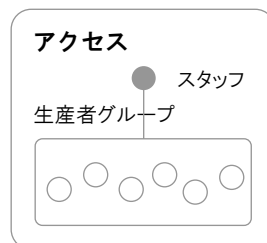
ベレーズ地区で、地域に豊富にある素材(ココナツ殻など)を活用した商品の生産・販売を行い、そこから得られる収入で生産者の生活を向上させていくという取り組みです。

2000年スタート当初



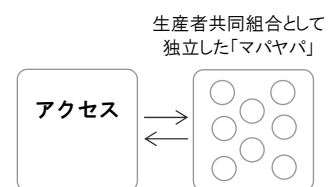
働きたいと願う女性を対象に、技術指導を行い、商品生産を開始。日比共同でデザインを開発し、主に日本で販売。一人ひとりの生産者が、アクセスのスタッフから直接、指導や注文を受けていました。

2012年度



生産者グループ「マバヤバ」を組織して、役員選出、規約づくり、定例会議の開催が実現。以前はアクセス・スタッフが行っていた発注の配分、品質管理、出荷準備などもメンバーで分担して行うようになっていきます。アクセス・スタッフは、生産者団体が自立できるよう、サポートを行っています。

将来的には…

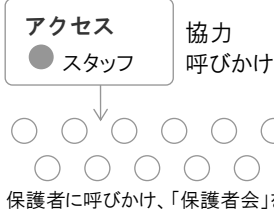


生産者一人ひとりが対等な立場で経営・運営にたずさわって、民主的にものごとを決定する共同組合として、マバヤバが自立することを目指しています。アクセスは、マバヤバの取引先であり、相談役として関係を継続します。

給食プログラムの場合

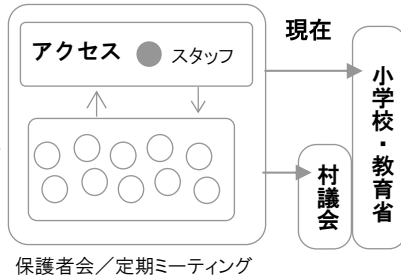
ピナツボ地区の子どもたちのための給食プログラムでは、アクセスが資金を確保し、保護者が買出し、調理、配膳、後片付けを担っています。

2010年スタート

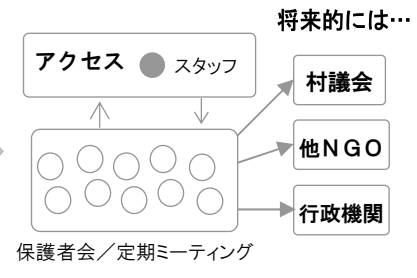


保護者に呼びかけ、「保護者会」を組織

近畿ろうきんからの支援で給食プログラムを実施するにあたり、幼稚園・小学校の保護者を「保護者会」として組織。保護者が協力して、給食を実施する体制を作りました。



給食準備ミーティングや、調理ボランティアは、保護者間の親睦を深める場に。「小学校卒業まで学べる地域をつくりたい」という共通の想いを持つ保護者たちとアクセスが連携して教育省に働きかけ、校舎の増設、学年の拡大が実現！



将来的には…
地域の未来は、住民自身が考え、決めていきます。アクセスは話し合いをサポートし、意見がまとまるよう支援します。人々が村議会やNGO、行政などと協力して課題を解決していけるようになることをめざします。

貧しい生活の中で、十分な教育を受けることができずにきた人々にとって、事業を運営したり、組織として話し合いでものごとを決めたり問題を解決したりするのは簡単なことではありません。そんな中、アクセスでは保護者会や生産者団体といった、プログラム参加者によるグループを組織し、日々の活動を通じて、メンバーが事業運営に関するさまざまなスキルを身につけられるようにしています。

アクセス・スタッフの仕事は、そうした事業運営をまずは自らやることで手本を示し、その後、徐々にその仕事を参加者に引き継いでいくこと、そして組織運営に関するアドバイスをしたり、相談にのったりすることです。また、子どもや女性の権利についてのセミナーを行ったり、貧困が生まれる構造についての学習会を行うなどして、住民の意識の向上にも取り組んでいます。

コミュニティ・エンパワメント～地域の問題にとりくむ組織づくり

現在、アクセスが行っているすべてのプログラムのもとで、住民のグループを組織すること、そしてそれぞれのプログラムを組織のメンバー自身が運営できるようになることをめざしています。いずれは、それぞれの組織の代表者によって「住民協議会」がつくられ、地域の多くの人たちが共通して抱えている問題の解決にとりくめるような存在になっていけば、と考えています。

住民協議会の建設と役割

将来的には…

アクセス

アクセスの役割は、住民協議会が取り組む課題について、活動の参考になる情報・人脈などあらゆるリソースを提供したり、活動の相談にのったりすることです。

【ベレーズ地区住民協議会】

マパヤパ生産者共同組合

青年会

保護者会

奨学生会

マイクロファイナンス・グループ

土地問題

環境問題

女性の権利

子どもの権利

農村地区の貧困の原因の1つは、大土地所有制ですが、一部の農民が不満を口にしたりはできません。でも、土地なし農民が協力し、一斉に声を挙げれば、状況を改善できる可能性はあります。

子どもの権利についても、尊重されるべき権利について知る人を増やし、多くの子どもが団結して権利を主張すれば、権利侵害は減っていきます。

「住民協議会」は、地域が抱える問題について提起し、どうすれば問題が解決できるのかを考え、議論し、行動にうつしていくための場です。

2013年度事業報告と2014年度事業計画

アクセス総評

10年後のビジョン議論スタート

2007 年以降に取り組んできたさまざまな新しい取り組みや改革によって、アクセスの事業や組織は大きく発展しました。日本・フィリピン(以下、日比)ともに事業に参加する人の数は年々増え、活動の質も向上しています。取り組みがメディアで取り上げられることも増え、支援してくださる方も増加しました。しかし同時に、新しい組織課題にも直面しています。

2013 年度、山積する新しい課題を乗り越えるために取り組んだのが、「アクセスの10年後のビジョン(私たちは10年後に何を達成していきたいのか)」議論でした。議論を通じ、長期的なビジョンや、それを達成するための道筋をわかりやすく表現できるようになれば、アクセス関係者の一体感が強まり、直面する課題についても一致団結して解決していけると考えたからです。

こうして始めた10年後のビジョン議論には、日比のボランティアスタッフ・会員・職員・理事が参加。日本で開催した25周年記念フォーラムで、「中間報告」を発表しました。この議論は2014年度も継続し、2014年度末を目処に10年後のビジョンを完成させる計画です。

プログラム参加者数の拡大

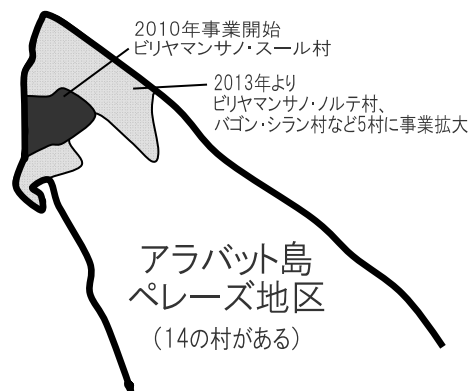
ペレーズ地区およびピナツボ地区では、支援事業に参加できる子どもたち、女性たちの数を増やすことができました。ペレーズ地区では、奨学金・マイクロファイナンス事業において、ビリヤマンサノ・スール村の希望者全員がプログラムに参加できるようになったため、周辺の5つの村にも活動を広げることができました。(右地図を参照)

また、ピナツボ地区では、教育省と連携して初等教育を受けられる子どもたちの数を年々増やすことができ、2013年度は地域の学齢期の子どもたちの9割以上が就学できるようになりました。フィリピン全国平均では、10人に3人の子どもたちが小学校を卒業できていない中、被災地の教育環境が大きく改善しています。(関連記事P4)

ペレーズ地区のフェアトレード事業を拡大

重点事業地として位置づけているペレーズ地区では、手作りグリーティングカード生産事業を新たに立ち上げ、10～20代の5名で構成される生産者団体「パンガラ」として組織しました。2013年7月より、生産・販売を行っています。これまでに組織してきたフェアトレード生産者団体「マパヤパ」(ココナツ殻製品生産グループ)については、商品生産の傍ら、協同組合化に向けた準備を進めました。(P5に関連記事)

【ペレーズ地区 事業拡大エリア図】



■ビジョン(展望)

私たちの夢は、次のような社会を築くことです。

- ✓ 人々が互いに多様性を受け入れ協働して生きられる社会
- ✓ 人々が自然環境と調和して暮らす社会
- ✓ 土地とすべての生産資源に誰もが平等にアクセスすることのできる社会
- ✓ 人々が社会関係を創造・発展させる自由、自分たちが責任を持って統治する自由を享受する社会
- ✓ 人権・尊厳・創造性が尊重される社会
- ✓ 人々、特に子どもたちが健康に、家族や社会の中で生きづらさを感じることなく生きられる社会
- ✓ 国境がなく、誰もが自由を大切にする社会

■ミッション(使命)

私たちは、アジア、とりわけフィリピンの貧しい人々の困窮状態に突き動かされ、また人としての義務感に鼓舞されて、国際連帯の推進、すなわち貧困・人権侵害・戦争と平和の諸問題に国境を越えて共同で取り組むことを通じて、貧しい人々・収奪された人々・抑圧された人々の集団的エンパワメントに献身します。

■ゴール(目標)

私たちは都市と農村の窮乏したコミュニティにおいて、住民のニーズに応じたプログラムを複合的に実施することを通じて、住民が民主的に運営する組織を建設し、国際的・国内的なネットワークを形成することをめざします。

アクセス・フィリピンの ビジョン・ミッション・ゴール

■戦略

私たちは、これらのビジョン・ミッション・ゴールの達成のために、貧困の中で生きる人々自身による草の根の住民組織を組織すると同時に、日本人とフィリピン人の中産層や専門家たち(学位保持者や大学卒である必要はない)に働きかけ、私たちが関わっている都市および農村の貧しいコミュニティのニーズに対応した複合的なプログラムに参加する人々のネットワークを広げます。

また、こうした取り組みが安定的に行えるよう、責任ある組織の管理・運営を実現します。

より多くの市民とともに創る国際協力

日本では、一人でも多くの人々に活動に参加してもらい、「誰もが希望を持って生きられる社会」を多くの方々とともに創っていきたいと考え、活動に取り組みました。

2013 年度に特に力を入れたのは、10 年後のビジョン作成と、それを踏まえた第三次財務 3 年計画の作成です。これらはまだ完成していませんが、2014 年度も議論を継続し、2014 年度内に策定したいと考えています。

誰でも参加できる国際協力の拡大

2013 年度は、フィリピンの子どものつながりを実感できる奨学金プログラムの広報に力を入れるとともに、気軽に取り組める古本・CD 等の収集事業をスタートさせたことで、支援者の裾野が広がりました。特に奨学金については、新聞紙面での掲載回数が増えたことや、既存会員の皆さまがご家族やご友人などにアクセスを紹介してくださるケースが増え、サポーター数が拡大しました。

フェアトレード事業の再編・強化

2013 年 1 月に担当職員を 1 名採用し、フェアトレード事業再編強化のための 3 年計画の 1 年目に取り組みました。フィリピンでのグリーティングカード生産事業の立ち上げのほか、あべのハルカスでのイベント開催、ホームページや Facebook ページ、カタログなどの広報ツールの整備が進みました。取組みの詳細については、P20 をご覧ください。

【フェアトレード事業部ホームページ】

NPO 法人アクセス フェアトレード



で検索

課題は、学生層以外の方々が集える場づくり

2013 年度当初に必要な性が指摘されていた、「社会人や主婦、シニア層などが活動しやすい場づくり」は、年度内に実現することはできませんでした。2014 年度は優先順位を上げて取り組んでいきます。

また、認定 NPO 法人格取得に向けた経理・総務業務の強化については、2013 年 6 月に採用した税理士資格を持つ職員を中心に、組織整備をすすめました。2014 年度も引き続き認定 NPO 法人格取得に向けて、取組みを進めます。

日比で、働きがいのある職場づくりを

アクセス・フィリピンでは 2013 年度、事務局長の交代、総務経理部長の変更など、大きく体制変更を行ないました。新しい体制のもと、若手職員や中堅職員の定着と育成、リーダー的ポジションの世代交代を進めることが重要な課題です。アクセス・日本でも、職員の定着がここ数年の課題になっています。

日比とともに、待遇の改善や会議の持ち方などの工夫、スキルアップのための機会づくりなどに取り組み、働きがいのある職場づくりを進めます。



(左) 新しくなったフェアトレード事業部ホームページ。



(右) 新しい商品カタログの一部。ホームページからダウンロードできます。



パナソニックの方々とともに事業計画づくり

「プロボノ」という言葉をご存知ですか？社会人が自らの専門知識や技能を生かして参加する社会貢献活動のことで、働きながらプロボノワーカーとして活動する人が徐々に増えています。

2013 年度は、パナソニック社員のプロボノワーカー 6 名の方々にご協力いただき、客観的な視点を取り入れながら、アクセスの次の財務 3 年計画作成の土台となる提案をしていただきました。企業での豊富な経験を生かした数々のアドバイスから気付かされることは多く、日々の業務に追われて見落としがちだった大切なこと、後回しになっていた課題などを提起いただきました。

フィリピン事業報告 1 ペレーズ



7人の奨学生が小学校を卒業！

2014年3月、アクセスの奨学生7人が小学校を卒業しました。奨学金がなければ小学校すら卒業が難しかったであろう子どもたちの晴れ姿を、親たちは溢れる笑顔で喜んでいました。

この奨学金プログラム、2013年度は日本のサポーターや支援者の協力により、ペレーズでは111名の子どもの小学校就学を支援することができました。2010年度から始まった近畿労働金庫との共同事業「心のそしな」による給食事業も、継続しました。（「心のそしな」プロジェクトについては、P16をご覧ください。）

課題は、土曜日に実施してきた補習授業の受講率の低下です。フィリピンでは、学校の授業だけで全生徒が読み書き計算の基礎を身につけられるとは限りません。それを補うために行っているのが、補習授業です。2013年度は講義形式の授業方法から、ゲームなどを用いた参加型授業への移行を試み、子どもたちの関心を高めることができました。しかし、下半期は激しい風雨の日が続いた影響もあり、受講率の改善はできませんでした。2014年度も引き続き改善をすすめていきます。

子どもにやさしいコミュニティづくり

フィリピンでは、各村議会に「子どもの保護のための村評議会（BCPC）」を設置し、すべての子どもたちの権利を住民の努力で守っていくことが法律で定められています。しかし、UNICEFの2010年の調査では、多くの村がBCPCを設置していません。

アクセスでは、2010年から奨学生とその保護者を対象とした子どもの権利セミナーを開始。2011年度には、地域のヘルスワーカーや学校の先生、村長、村のボランティア警察などを巻き込んで、BCPCを設立することができました。

2013年度は、主に奨学生の保護者を対象として「発達障がい」、「子どもの虐待や搾取」、「子どもの非行と少年司法」などのテーマでセミナーを開催。子どもをとりまくあらゆる課題について理解を深めました。こうしたセミナーを受講したメンバーがBCPCを通じて村議会に働きかける場面が増え、ボランティア警察が村の見回りをするようになったり、18歳以下は夜9時以

降一人で出歩いてはいけないという村のルールができるなど、具体的な変化が見られるようになりました。

実施村を5つに マイクロファイナンス

商売を通じて生活を改善したいと希望する女性に少額を融資するマイクロファイナンス事業では、2013年度に実施村を2つから5つに拡大し、融資対象者も増やすことができました。

しかし、返済できないケースも出始めているため、経営能力向上を目的としたセミナーを2014年1月から実施するようになりました。2014年度中にはインパクト調査を実施予定です。

有機養豚・菜園プログラムは、菜園のための実験農場を5月で閉鎖し、新たな豚の配給も停止。養豚を続ける世帯への技術サポートのみ継続しました。

ペレーズ事業概要

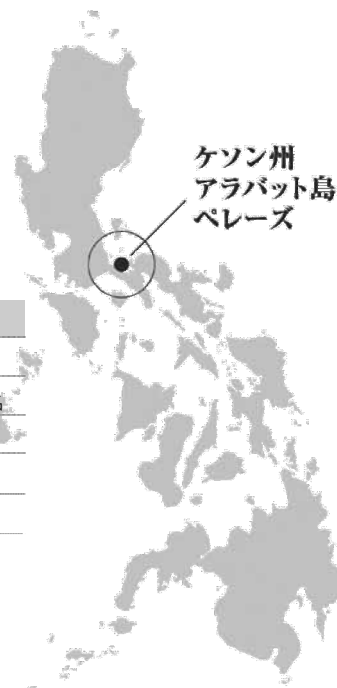
ペレーズ地区は、ルソン島の太平洋岸に浮かぶ小さな島アラバット島の一地区で、貧しい農漁村です。2013年度は、前年に引き続きフェアトレードプログラム、奨学金プログラム、青年会プログラム、マイクロファイナンス（少額融資）プログラム、有機養豚・菜園プログラム、を実施しました。

以上の取組みは、ご寄付、会費、今井記念海外協力基金からの助成金をもとに、実施しました。

2013年度の実施事業と対象者数

フェアトレードプログラム	10名
奨学金プログラム	111名
青年会プログラム	20名
有機養豚・菜園プログラム	12名
マイクロファイナンスプログラム	80名

フェアトレードについてはP5もご覧ください。



ネグロス州
アラバット島
ペレーズ

フィリピン事業報告 2 スモーキーマウンテン



2013 年 9 月 21 日、火事で焼けてなくなった家を見つめる元住民

ギャングによる圧力のもとで

2012 年 7 月、地域住民による立ち退き反対運動が高まろうとしていたスモーキーマウンテン(ごみ捨て場周辺コミュニティ)で、地域住民のリーダーだった女性がギャングによって銃殺されました。以降、立ち退き反対運動をサポートしていたアクセスの関係者もギャングから脅しを受けるようになり、コミュニティに入ることさえできなくなりました。2013 年度は、そうした制限された環境の中で、地域住民と連携して、活動を行いました。

立ち退き反対運動、 内務自治省へ署名を提出

2012 年から皆さまにご協力いただいて集めた署名 12,306 筆については、2012 年 10 月に 5,012 筆を大統領府に提出、残りの 7,294 筆を 2013 年 8 月にフィリピン政府内務自治省に提出しました。また、記者会見を開いて、テレビやラジオ等を通じた情報発信も行いました。

350 世帯が被災、大火災と救援活動

2013 年 9 月、スモーキーマウンテン地区の一画で、大規模な火災が発生しました。火はあっという間に燃え広がり、全焼・半焼合わせて 350 世帯が被災しました。アクセスでは、一報を受けてすぐに会員・支援者の皆さまに協力をお願いし、地域住民からボランティアを募って、被災者への救援活動に取り組みました。(P5 に関連記事あり)

多目的保健センター、やむなく閉鎖へ

スモーキーマウンテンで年間 2000 人以上の患者を手当てしていたアクセスの多目的保健センターでは、住民リーダー殺害事件以降、協力してくれる住民ヘルスワーカーの数が減り、2013 年度の利用者数は 779 人に止まりました。また、2014 年 1 月には多目的保健センターがギャングによって占拠され、以

降は患者の手当て自体ができなくなってしまいました。2006 年から 8 年かけて発展させてきた多目的保健センターのサービスをこのような形で終了しなければならなかったことは、住民ヘルスワーカーにとっても、日比アクセスのスタッフにとっても、言葉にならないほど悔しく、腹立たしい出来事でした。

サッカーやラップソングで若者を育成

アクセスは、若者の非行防止と健全育成のための青年会プログラムを 2006 年から続けています。スモーキーマウンテン内でのギャングによる脅しが本格化してからは、スモーキーマウンテン外のいくつかのコミュニティに暮らす若者を組織し、青年会活動を続けてきました。リーダーの青年ジョマール(18 歳)を中心に 30 人の若者が、サッカーやダンス、演劇、ラップソングの作詞などを通じて、自分たちが暮らす都市貧困地区の状況を見つめ直し、その中で感じ、考えていることなどを表現しています。部活動がさかんでないフィリピンにおいて、青年会活動は若者が自分たちを見つめ直す場となっています。

幼稚園運営サポートを開始

フィリピンにはたくさんのゴミ捨て場周辺コミュニティがあります。中でも、スモーキーマウンテン以上に大規模なものが、パヤタス地区スモーキーバレーです。アクセスは、このパヤタス地区で 1994 年に幼稚園を建設しています。

2013 年度は、この幼稚園の運営支援を開始し、27 人の幼児の就学を実現しました。フィリピンでは、幼稚園で基本的な読み書き計算を身につけていることが、小学校入学の条件となっており、貧困地区の子どもたちの小学校中退を予防する取り組みとして、力を入れて取り組みました。



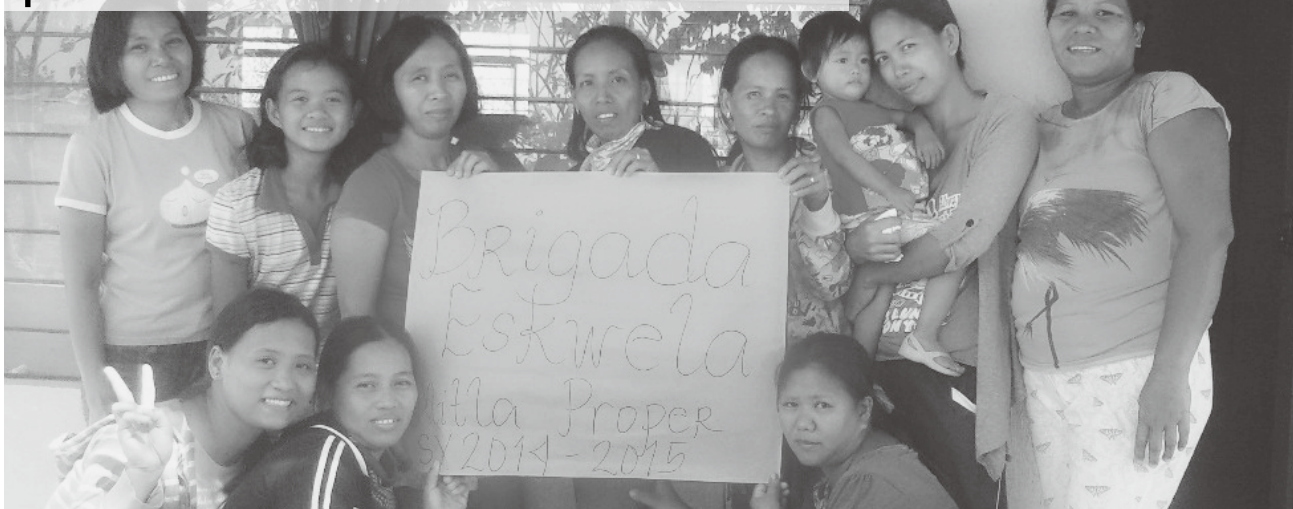
パヤタス地区の幼稚園で学ぶ子どもたち

2013 年度の実施事業と対象者数	
保健衛生プログラム ヘルスワーカー	2 名
保健衛生プログラム手当てした患者	779 名
青年会プログラム	30 名
幼稚園 児童	27 名

以上の取組みは、ご寄付、会費、夢屋基金からの助成金をもとに、実施しました。



フィリピン事業報告3 | ピナツボ



学校の全校清掃日にボランティアで作業に参加したお母さんたち

小学校6年まで学べるコミュニティ、ついに実現！

1991年のピナツボ火山噴火以降、16年ものあいだ教育施設がなかったミラ地区で、アクセスは2007年から教育支援に力を入れて取り組んでいます。アクセスの長年の支援者である山田征さんと咲き織順子さんが多くの方に呼びかけてくださったことで、2008年に最初の校舎建設が実現しました。以降、日本の支援者の皆さまと、現地の住民、自治体、フィリピン教育省などが連携し、地域の教育環境はずいぶん改善しています。

2013年度は、皆さまからの寄付金や会費により、118名の子どもたちに教育のチャンスを提供することができました。また、保護者たちの働きかけにより教育省が小学校校舎を増設し、ついに2014年6月に、6年生まで学べるコミュニティが実現しました。（詳細については、P4をご覧ください。）

自分たちにできることは、何でもやってみよう

アクセスでは、教育機会の提供とあわせて、保護者の組織化にも力を入れています。これまで、給食の調理などを通じて保護者間の協力を促してきました。2013年度も月1回はPTAミーティングを開催し、話し合いを通じて給食当番を決めたり、

学校の清掃、花壇の整備、食堂や調理場の建設といったさまざまな活動に取り組んできました。行政にまかせきりにせず、また夫や男性にも依存せず、母親たちが「自分たちにできることは何でもやってみよう」という姿勢で、パワフルに頑張っています。

幼稚園・社会教育センターでの新しい挑戦に向けて

アクセスは2014年6月、小学校から歩いて5分の場所に、新たに幼稚園・社会教育センターとして活用する2教室の校舎を建設しました。ここで、幼稚園年少組の授業を行うと同時に、母親たちのための事業を行っていきます。栄養や食品加工について学ぶセミナーや、小学校・中学校の卒業資格取得試験のための補習授業を開講し、地域の母親たちをバックアップしていく計画です。

以上の取組みは、ご寄付、会費、大阪コミュニティ財団がっこう基金からの助成金をもとに、実施しました。

2013年度の実施事業と対象者数	
幼稚園生徒	35名
小学生生徒	83名
カラバオ(水牛)供給プログラム	3家族



ピツッ!

預金を通じて、子どもたちを応援！「心のそしな」プロジェクト

アクセスでは近畿ろうきんと連携して、ピナツボ地区とペレーズ地区の子どもたちに教育と給食を提供する「心のそしな」プロジェクトを2010年春にスタートしました。これは、近畿ろうきんに定期預金などをしてくださった方への粗品をなくし、粗品分の費用を子どもたちへの支援にあてるというものです。

預金をするだけで子どもたちの学びを応援できるというこのプロジェクトに、たくさんの方が賛同してくださっています。この取り組みは、企業とNPOの協働事業を表彰する「パートナーシップ大賞」の2011年度グランプリにも選ばれ、新聞・ラジオ・雑誌等でも紹介されました。「国際支援に関心はあるけど、何からはじめたらいいかわからない」という方、預金からはじめてみませんか？

【問い合わせ】近畿労働金庫 本店営業部 TEL 06-6449-1211

フィリピン事業報告 4 アペロクルス



アペロクルスからの風景。手前に写っているのは、焼け残って真っ黒になった木の柱や、ブロック塀の一部。

275 世帯が被災する大火災に緊急救援

2013 年 7 月 24 日、アペロクルスの一画でまた、大規模な火災が発生しました。アクセスがアペロクルスで活動を始めた 1997 年以来、地域で大規模火災が起きるのは 5 回目になります。狭いスペースにたくさんの家々が集住する都市貧困地区では、一度火災が起こると、あっという間に火が広がり、被害はとて大きくなってしまいます。幸い、今回の火災を直接の原因とする死者はでなかったものの、約 275 世帯が被災し、奨学金プログラムで支援している 3 人の奨学生も被災しました。

この火災の約 1 年前、2012 年 7 月 11 日にも、アペロクルスの一画で大火災があったことをご記憶の方も多いと思います。アクセスでは、2012 年火災の直後に会員・支援者の皆さまに協力を呼び掛け、約 12 万円の支援金をお寄せいただきました。そのうち、約 7 万円で食料品や再建用資材を提供し、残った約 5 万円は、今後起こりうる災害の被災者のための基金として保管していました。

今回の火災では、発生直後にアペロクルス住民協議会の会長からアクセス・フィリピンのスタッフに連絡が入り、即座に災害用基金を活用して救援活動を行いました。今回の救援活動を経て、災害用基金の残金は 14,415 円となりました。（救援活動の内容については、P5 をご覧ください。）

奨学金プログラム、8 名が卒業

アペロクルスでの奨学金プログラムが始まって 16 年目となった 2013 年は、16 人（うち 2 人は中学生）の奨学生に学用品や制服を支給し、2 名が中学校を卒業、6 名が小学校を卒業しました。アペロクルス住民協議会スタッフは奨学生の保護者との隔月の定例会議を開催し、クリスマス会などの行事や日本の支援者への報告について話し合いました。

子どもや若者の非行問題の難しさ

2013 年は、奨学生の 1 人が、事情により奨学金を辞退して小学校を中退してしまいました。経済的に厳しい状況に置かれている子どもが、学校をさぼる、酒・タバコ・ドラッグなどに手を出してしまう、といった問題は少なくありません。今回、中退を止められなかった子どもは、母親の働きかけの甲斐なく家を出て行方がわからなくなってしまい、アペロクルス住民協議会のスタッフが話を聞いて説得をしようと試みましたが、会うこともできませんでした。

フィリピンでは、小学校であっても年間平均点が 75 点を下回ると、次の学年に進級できません。経済的に厳しい家庭の子どもは、課題に必要な文具や副教材を買えず、課題が提出できないため成績が下がる、という問題があります。思うように進級できず、自分よりも年下の子どもたちと一緒に学ばなければならぬ子たちは、次第に勉強への熱意や、自信を失っていきます。アペロクルス住民協議会のスタッフは、特に厳しい状況に置かれている子どもたちを見守り、必要に応じて家族や本人の相談に乗って、非行や中退を防ぐ努力をしています。

アペロクルス概要

アペロクルスは、マニラ首都圏バサイ市にある典型的な都市貧困コミュニティです。川沿いに簡素な家々が密集して立ち並び、約 7500 人の人々がひしめきあうように暮らしています。

2013 年度の実施事業と対象者数

奨学金プログラム	16 名
火災被災者への支援	130 世帯

日本事業報告 1

2013 年度は、過去数年の取組みで得られた経験を最大限生かしながら、会員・協力者・ボランティアスタッフの皆さんの力をお借りして、さまざまなチャンスや出会いを具体的な支援につなげることができました。具体的な取組みは以下の通りです。

■ 台風 30 号の被災地へ、114 万円もの協力

2013 年 11 月 8 日、大型台風 30 号(ヨランダ)がフィリピン中部を襲いました。人口の 1 割が被災し、6000 人以上が亡くなるという大規模災害となり、アクセスの関係者の方々から心配の声をたくさんお寄せいただきました。アクセスでは、現地で活躍する災害救援 NGO や、被災地の協同組合などと連携し、救援・復興活動に取り組むことになりました。

これにあたり、以前からご協力くださっていた方々に加えて、これまでご縁のなかった個人・企業・グループにもご協力いただくことができ、なんと約 114 万円のご寄付をお寄せいただきました。以降、食料・学用品・建材の提供、ストレス緩和ケアの指導者育成、生計手段の再建事業を実施、2014 年度も復興支援の取組みを継続しています。(詳細は P05 をご覧ください)

■ フィリピンの子どもと直接つながる 奨学金プログラム、奨学生が倍増

2012 年度より、子どもたちに基礎教育のチャンスを提供する奨学金プログラムを重点事業と位置づけ、奨学金サポーターを募ってきました。サポーターからの 15,000 円で、一人の子どもが 1 年間学校に通うことができる、という仕組みで、フィリピンの子どもと直接手紙や写真で交流ができ、顔の見える支援として、長年続けています。2013 年度は、さまざまな呼びかけを通じて、奨学生数を 51 人から 111 人にまで増やすことができました！

新たにサポーターになって下さった方の内訳は、スタディツアー参加者 17 名、毎日新聞「あなたの愛の手を」欄読者 14 名、既存会員 9 名、会員からの紹介 9 名、カフェイベント参加者 4 名、その他 1 名となっています。

2014 年度は、子どもたちとサポーターの皆さまの間の交流を促進する工夫をし、「もう一人の家族がフィリピンにいる」ような関係づくりを、目指していきたいと考えています。

■ 参加しやすい仕組みづくりが一歩、前進！

より多くの方にアクセスの活動に触れ、参加していただくという目的で、2013 年度は「ココロ便」と「カフェイベント」という 2 つの事業に、特に力を入れて取り組みました。

国際協力に関心を持つ人々と直接出会い、アクセスの活動に関心を持ってもらうことを目的に、京都市内のカフェを借りて

の「カフェイベント」を 4 回開催。計 74 名の方にご参加いただき、そこから 4 口の会員増につながりました。

ココロ便は、中古品の買取販売業者ブックオフコーポレーション株式会社との連携で始めた事業です。自宅で眠っている本や CD などをご寄付いただき、その買取額と、ブックオフからの寄付金アクセスの活動費となる、という仕組みです。2013 年度前期に開始して以降、41 名の方々からご協力いただき、58,356 円(約 4 人分の奨学金に相当)のご支援をいただきました。個人からの協力のほか、カフェイベントを開催したカフェなど 5 カ所に、収集ボックスを設置していただくこともでき、支援の輪が広がっています。

2014 年度は、こうした取組みを改良しながら継続し、もっともっと共感・協力してくださる方を増やしていく計画です。

■ 伝わっていましたか？ 活動の成果と課題

皆さまからのご支援ご協力がどのような活動に生かされ、どんな成果を生んでいるのかについては、年 4 回のニュースレター「となりのアジア」や、年次報告書、メールマガジン(年 5 回)、Facebook ページ(随時更新)を通じてお伝えしました。12 月には、フィリピンの受益者やスタッフから会員・支援者の皆さんへのクリスマスカードの送付も行いました。

ご協力いただいている皆様に、少しでも現地の様子を感じとっていただきたい。アクセスの成果と課題を共有し、ともに歩んでいただきたい。そんな思いで、情報発信を行っていますが、皆様にとって本当に読みやすい、わかりやすい内容になっているのか、思考錯誤で取り組んでいます。「もっとこんな情報が欲しい」「こんな媒体で伝えてほしい」といったご意見があれば、ぜひお寄せください。

■ 地球市民教育事業の拡大

スタディツアーは貧困問題・戦争問題について感じ、知り、考えてもらうという意味で最良の地球市民教育の場です。同時に、多くのスタディツアー参加者がツアー後、支援チーム・事業部・支部の活動に参加しており、アクセスの活動を支えています。

2013 年度は、前年度同様、スタディツアー 12 日間を 3 回、フェアトレードツアーを 1 回開催し、フィリピンの現状を体感していただきました。しかし、大型台風 30 号の影響もあってか、参

加者数は43名(前年度の67%)に止まりました。このうち、1/3以上の方が、現在もスタッフとしてアクセスの日々の活動に携わってくださっています。

フィリピンの現状や貧困の原因、アクセスの活動を知っていたための講義・講演・パネルディスカッション等への参加については、当初の目標通り25件となり、たくさんの方にお話を聞いていただくことができました。

また、アクセスの理念や方針、大切にしている考え方などを整理するとともに、広く発信する目的で、国際経済労働研究所発行の「Int'lecowk」誌、日本住宅協会、自治体国際化協会に寄稿しました。

日本国内におけるエンパワメントという観点から、ボランティアスタッフへの研修にも力を入れて取り組みました。貧困、フィリピンの歴史、戦争、グローバリゼーション、エンパワメントといったテーマで実施し、15名の参加がありました。

企業連携

2010年度に始まった近畿労働金庫(近畿ろうきん)との共同事業「心のそしな」プロジェクトは、近畿ろうきんの預金者の方に渡す粗品費用を、物品に使うのではなく、代わりにピナツボ地区とペレーズ地区の子どもたちの教育費と給食費として使うというものです。本プロジェクトによる教員増員がきっかけとなってピナツボ地区の教育環境が大きく改善するなど、「心のそしな」プロジェクトは、さまざまな良い変化を生み出しています。(詳細はP4/P16をご覧ください。)

2013年度は、前述のブックオフコーポレーション株式会社と

の連携事業「ココロ便」がスタートしたほか、台風30号被災地支援において、生活協同組合や学習塾、労働組合、カフェなど、さまざまな組織からご協力をいただき、支援の輪が大きく広がりました。多様なセクターの方々と連携させていただくことで、これまでご縁のなかった方々にもフィリピンの現状や、アクセスの活動を知っていただけるチャンスが増えています。ご縁を下さった方々に、心から感謝申し上げます。

(ご協力くださった企業の一覧をP32に掲載しています。)

財務面での成果と課題

以上のような取り組みの結果、2013年度は対前年比で、約430万円の収入増、対予算比では約43万円の収入増となりました。スタディツアー参加者が半減したこと、フェアトレード商品の売上げが伸び悩んだことにより、事業収入は予算を下回りました。しかし、ほぼ想定どおりの助成金をいただくことができたこと、会員数を順調に伸ばすことができ、予想を超える多くの方々からご寄付をお寄せいただいたこともあり、全体としては黒字決算となりました。あらためて、本当にたくさんの方々とともにアクセスの活動を創っているのだということを実感しています。お力を貸してくださった皆さま、本当にありがとうございました。

	2012年度	2013年年度
会員数	555人	646人
会費額	3,952,444円	5,323,000円
寄付額	5,186,134円	5,246,000円

※上記数値は各年度末(3月)の数値です。



スタディツアー中、浜辺で子どもたちと交流する参加者



奨学生とともに昼食をとる、スタディツアー参加者の皆さん

*ここ数年は、大学生に加えて社会人、退職者、主婦、高校生、専門学校生の参加も少しずつ増え、多彩なメンバーが交流するより深みのあるツアーになってきています。

29 点もの新商品を、ぞくぞく開発！

フェアトレード事業部では、これまで扱ってきたココナツ殻製品に加え、ペレーズ地区で新たな生産者団体「バンガラ」を組織し、2013 年 9 月からグリーティングカードの生産・販売を開始しました。2014 年 2 月にはミニカードの開発を終え、販売を開始しています。また、2014 年のクリスマスシーズンにたくさんのカードを販売し、生産者に安定した収入を提供できるようになることを目指し、新デザインの検討もスタートしました。

生産者団体「マパヤパ」のココナツ殻製品も、新商品のヘアゴムの販売を 2013 年 11 月から開始しました。2013 年度はカード 9 点、ミニカード 6 点、ココナツ製品 14 点を開発し、商品ラインナップを大きく拡大することができました。フェアトレード事業部が扱う主要な商品は、ペレーズ地区の生産者団体「マパヤパ」が作るココナツ殻製の雑貨やアクセサリです。2012 年度は約 39 万円分の商品を仕入れ、約 80 万円を売り上げることができました(2011 年度売上額は約 27 万円)。このことにより、6 名の現地生産者は合計 21 万円の収入を手に入れました。

2013 年 1 月からは、新規採用したフェアトレード担当職員とフェアトレード事業部のボランティアスタッフが協力し、活動の幅が大きく広がりました。



生産者団体バンガラの新品であるミニカード



日本一高いビル、「あべのハルカス」でワークショップを開催

「あべのハルカス」でもイベント開催、
フェアトレードをより多くの方に

アクセスのフェアトレード事業をより多くの人に伝えていこうとの思いから、Facebook ページの開設、ホームページのリニューアルに取り組み、広報力を強化してきました。

また、今年もさまざまな国際協力系イベントに出店しました。関西ではよく知られている国際協カイベント「国際協カステーション」や「ワンワールドフェスティバル」に今年も参加しました。また、「日本一高いビル」としてメディアでも大きくとりあげられた「あべのハルカス」にも進出！百貨店の一角で、フィリピンから取り寄せたココナツの殻を磨いてキーホルダーを作る手作りワークショップなどを開催し、手作業を通じてフェアトレードや商品の魅力をたくさんの人に感じていただくことができました。

一般市場をめざして

2013 年度は商品開発と生産者のエンパワメントに重点を置き、生産体制の強化を目指してきました。そのため 2013 年度売上は約 72 万円と、昨年度約 80 万円からは縮小することとなりました。2014 年度は営業に重点を置いた活動を行い、取引先の拡大をめざします。

フェアトレードにできること

1. ダイレクトに現金収入につながる

貧困に苦しむ人は働かなくても仕事がない、がんばって働いても低収入…ということが大きな悩み。フェアトレードで仕事の機会を増やしたり、公正な価格を支払うことで、その悩みを緩和できます。

2. 生産者の自立につながる

フェアトレードでは単純に商品を売買って買い支えるだけでなく、生産技術向上や組織の運営能力向上のための支援も行います。能力向上によって、将来的には NGO などに頼らずとも継続的に生産・取引できるようになります。

3. 生産者の自信・自尊心につながる

フェアトレードはお金や物を無償で与える支援ではありません。生産者は自分で働いて稼ぐ喜びや自信を得ることができます。またフェアトレードは

ビジネスとして成立することを目指しているため、「支援される側」と「支援する側」ではなく、ビジネスパートナーとして対等な関係を築くことができます。

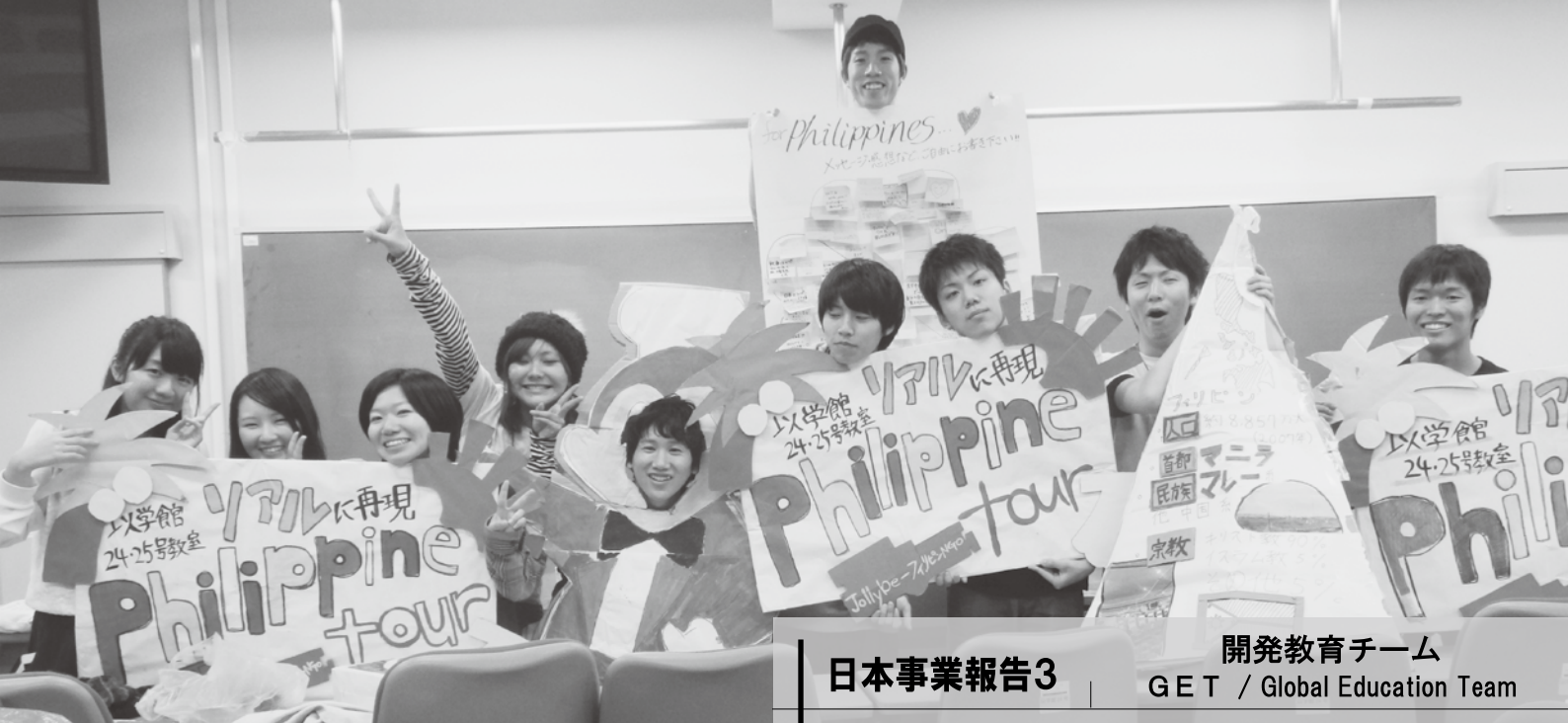
4. 貧しい地域の人々に夢を与える

いきいき働く生産者の姿を見て、まわりの大人や子どもたちが「自分も頑張れば何かできるかも」、「貧困から抜け出せるかも」と夢をもつきっかけになる可能性があります。

5. 貧困問題に関心を持ってもらうきっかけになる

普段、国際協力や貧困問題に関して関心が低い人にも、「かわいい！」「おいしいそう！」という視点からフェアトレード商品を手に取ってもらえる可能性があります。フェアトレード商品を広めることで、普段何気なく購入している商品の背景に貧しい人々がいるかもしれないと気づいてもらうことができます。

【フェアトレード事業部とは】①貧困地区における雇用の創出と現金収入の確保、②生産者団体へのエンパワメント、③貧困問題を日本の市民に伝え、解決手段としてフェアトレードを推進する、という 3 点を目的として活動を行っています。具体的には、ペレーズ地区でフェアトレード生産者団体の組織化、商品開発支援、商品仕入れと管理、フリーマーケット等での販売、取引先の拡大、日本でのフェアトレードの普及などを行っています。



日本事業報告3

開発教育チーム
GET / Global Education Team

立命館大学での「模擬スタディツアー」写真展の一角の様子

リアルな言葉や写真で人を動かす

開発教育チーム(GET)は、貧困問題の解決に向けて行動を起こす人を増やすために、さまざまな形で「伝える」活動を2002年から続けてきたチームです。スタディツアーなどでフィリピンを訪問した学生が中心となり、自分の目で見て肌で感じたフィリピンのこと、自分が出会ったフィリピンの人々のことをリアルな言葉や写真で伝え続けてきました。そして行動に移す人を増やすという目標を掲げています。

ビデオレターを通じた交流を実現

2013年度は7人のメンバーで、修学院中学校でのリーダー研修、龍谷大学での訪問授業を行いました。修学院中学校には、2002年からペレーズの子どもたちを支援していただいています。生徒の皆さんにペレーズをより身近に感じてもらう事をテーマにし、FACT チームと合同でリーダー研修に参加しました。



龍谷大学での訪問授業の様子

研修では、ペレーズの子どもたちが修学院中学校宛に作成したビデオレター(子どもたちの自己紹介や歌など)を上映、その後、お返しのビデオレターを生徒の皆さんと一緒に作成しました。ビデオレターの交換を通じて、ペレーズとのつながりを感じてもらうことができましたし、日頃から全校で取り組んでいただいている空き缶集めによるペレーズ支援の意義も再確認していただけたように思います。

ゲームや体験談で伝える、リアルなフィリピン

龍谷大学での訪問授業ではスタディツアーに関心を持ってもらう事に重きをおきました。実際にスタディツアーに参加したメンバーの体験談や、スタディツアーのプログラムにある家計簿を作成するグループワークを行いました。ワークでは、ゴミ拾いで生計をたてている家庭になりきってもらい、フィリピンの物価で家計簿を作成してもらうことで、一日三食食べられない事や病気になったときの大変さを感じてもらう事ができました。体験談では、GETメンバーが写真や音などを使って伝え方を工夫し、学生の皆さんにスタディツアーに関心を持ってもらう事ができたと思います。

訪問授業以外にも、他チームと協力して立命館大学学園祭での「疑似スタディツアー」を例年通り実施したり、事務局と協働してアクセスの25周年記念イベントを開催するなど、多くのイベントを成功させました。

2013年度末に4回生が卒業し、新たに3名の新スタッフが加わったので、2014度も目標を忘れず訪問授業やイベントなどで、「伝える」ことに取り組んでいきます。



サポーターからの手紙を、フィリピンの子どもたちに手渡しした FACT メンバー

小学校卒業の「夢」を支える

FACT(ペレーズ・アペロクルス支援チーム)は、農漁村地区ペレーズと、都市貧困コミュニティのアペロクルス地区を支援しています。アペロクルスで暮らす人々は、都市貧困の問題を抱えており、ペレーズで暮らす人々は、地主制度のため農漁村地域でありながら自給自足ができないという状況にあります。アクセスではそれぞれの地区の子どもたちが一人でも多く小学校を卒業できるように、奨学金プログラムを続けています。この奨学金プログラムでは、日本のサポーターと奨学生が交流を深めるために手紙のやり取りを行ったりします。そこで、その手紙などの翻訳を担っているのがFACTです。

サポーターの皆さんとともに

2013年度の奨学生数は127人でした(ペレーズ111名、アペロクルス16名)。141もの個人・グループの皆さんに、子どもたちの小学校への就学、補習授業、子どもの権利セミナ

ーの開催等を支えていただきました。

現在アペロクルスでは地域住民による活動が活性化したことから、アクセスによる支援は2015年度で撤退することが決まっています。アクセスを通じて支援する奨学生は残り6名となったため少し寂しい気もしますが、最後までしっかり支援していきます。ペレーズに関しては、これからどんどん奨学生を増やし、サポーターの方にもよりやりがいを感じていただけるよう、FACTとして工夫していく予定です。

ビデオレターで貧困問題を身近に

手紙の翻訳だけでなく、日本の子どもたちとフィリピンの子どもの橋渡しをすることもFACTの活動の一つです。昨年8月には、長年支援を続けて頂いている京都市立修学院中学校を訪問し、フィリピンの現状や自分たちの支援活動、また修学院中学校の皆さんの活動がどう支援につながっているのかなどを伝えてきました。フィリピンの理解を深めてもらう「フィリピンクイズ」、生徒の皆さんが支援してくださっている貧困地区ペレーズを知ってもらうための「プレゼンテーション」、ペレーズの奨学生との交流を目的とした「ビデオレターの上映と作成」などを行い、普段あまり感じるることのできない貧困問題を身近に感じて頂きました。まさに今、実際にこうした現状があることを、自分たちの活動を通して知ってもらう事はとても大切なことだと感じました。

2014年度は、目標でもある「奨学生と支援者のつながりを深める」ことに重点を置き、支援者の方にも満足していただける支援活動を行っていく計画です。



年2回のペースで、サポーターの方々を対象として発行しているFACT ニュースレターを手に



悪化するコミュニティを気かけながら

FIT は、マニラのスモーキーマウンテン周辺に暮らす人々の生活支援を目的に、保健衛生プログラム・青年会プログラムをサポートしています。2013 年度は立ち退きへの動きが加速したことや、9 月に起きた大火災の影響もあり、前年度より人々の生活は悪化していきました。FIT は住民の支援を続ける為、募金活動やチャリティグッズの販売を通じた資金集め、支援活動の見直しの為のチーム内での議論に全力で取り組みました。また、今年度は新メンバーが大幅に増え、より活発に活動ができるようになりました。

住民の想いを署名とともに政府へ

2012 年度から取り組んできた「立ち退き反対署名キャンペーン」で集まった署名のうち 7,294 筆について、2013 年 8 月に現地スタッフがマニラにある政府機関(内務自治省)に提出しました。当日は、他の都市貧困組織と共に、国内メディアに対して住民の現状を訴え、立ち退きの問題を発信する事ができました。改めて、署名へご協力頂いた方々にお礼申し上げます。

350 世帯が被災する火災に対応

そんな中、9 月 20 日にスモーキーマウンテン地区の一角で大火災が発生し、約 350 世帯が被災しました。FIT は会員や協力者の皆さまに緊急支援の呼びかけを行うとともに、12 月と 1 月に、京都で街頭募金を行いました。街頭募金では 29,616 円、お振込によるご支援も合わせると総額 101,616 円のご寄付を頂くことができ、食料品等の救援物資を被災した人々に提供することができました。

その後も定期的に現地からの報告書から状況を把握し、3 月には FIT のメンバー数名が現地を訪問、住民との交流や現状についてのヒヤリング、立ち退き後の再定住地の訪問を通じ、更なる現状把握に努めました。

立ち退き後のこれからを、元住民とともに

現地でのプログラムを支える為、FIT はタオルや T シャツ等のチャリティグッズを開発・販売しています。今年度は新たに、現地の子ども達の笑顔が光るクリアファイルを販売し、今後も新商品の制作に取り組んでいく予定です。

2014 年 6 月、現地ではついに全域での立ち退きが行われ、全住民が地区を離れました。大半は再定住地へ、一部はマニラ市トンド地区内の貧困地区に移住した模様です。スモーキーマウンテンで暮らしてきた 6000 人以上の人々は離れ離れになり、それぞれの場所で厳しい生活を強いられています。FIT は今後も、元スモーキーマウンテン住民の意志や想いを尊重した、継続的なサポートを行っていきます。



スモーキーマウンテン地区支援のためのチャリティグッズを販売する、FIT メンバー

戦争のない、女性の権利が守られた よりよい社会をめざして

ロラ支援チームは、第二次世界大戦中に旧日本軍兵士によって性暴力を受けたフィリピン人女性たちの立ち上げた団体「マラヤ・ロラズ」を支援するチームです（「ロラ」とは、フィリピン語でおばあさんという意味）。私たちは被害を受けたおばあさんたちの願いである“戦争のない、女性の権利が守られた、よりよい社会を創っていくこと”を目的として、日本の人たちにマパニケ村で起きた事件やマラヤロラズの受けた被害を伝える活動をおこなっています。

ロラチームは 2012 年度後半から活動を再開し、現在は4人のメンバーが所属しています。

勉強会から、新メンバー誕生へ

2013年10月、ロラチームとして、スタディーツアー参加者向けの勉強会を開催しました。ここではロラチームの紹介、マラヤロラズの活動、マラヤロラズに対する日本政府の対応について説明し、参加者には平和な社会を築くために自分たちに出来ることを考えてもらいました。参加者は3人と小さな勉強会となりましたが、「ツアーでも知れなかった事実を勉強出来て良かった。」という感想を頂き、参加者の1人がメンバーとして活動に加

わることとなりました。

事件のことを伝える取組み

11月には立命館大学で行われたアクセスの事業地を紹介する写真展にロラチームとして参加し、おばあさんたちの写真とともに事件の概要を文章にして掲示しました。訪れた方のほとんどはマパニケ村で起きた事件のことを知らず、中には「日本は被害国だというイメージがあったので、事件のことを知り非常に驚いた」という感想を持った方もいらっしゃいました。

2014年度も伝え続ける

マラヤロラズのメンバーの高齢化と体力の衰えか、らアクセスのスタディーツアーでは参加者がロラたちと交流出来る機会がなくなっていました。マラヤロラズが今までのように活動出来なくなった今、私たちが事件について日本の人々に伝える活動はさらに大きな意味を持つと感じています。今年はロラチームの新メンバー加入を目標に、伝える活動に専念していきたいと思っています。



アクセス事務所で開催した、戦争と性暴力問題についての勉強会の様子。パワーポイント、動画、資料を使い、気軽に質問していただける雰囲気を実施しました。



教室不足のピナツボ地区を応援しよう！

2010年に発足したPEACE(ピナツボ支援チーム)は、ピナツボ火山の被災地であるパンパンガ州ポーラック町ミトラ地区での教育支援活動を日本からサポートすることを目的に、活動をしています。2011年7月より約半年間はメンバー不足のため活動休止となっていました。2012年春のスタディツアー参加者が中心となり、「教室不足のピナツボ地区に、教育施設を建設しよう！」という目標を掲げ、活動を再開しました。

100万円で校舎建設をめざして

ピナツボ火山被災地の中でも復興が進まず、16年もの間小学校がなかったミトラ地区に、アクセスは2008年に校舎を建てました。これがきっかけとなってフィリピン教育省がミトラ小学校分校を開校。年々、就学する子どもの数が増え、それにつれて学年も増えていき、2013年度には幼稚園2学年、小学校5学年までが、地域で学べるようになりました。しかし、アクセスが建てた校舎は4教室しかないため、複式学級や時間差通学で授業を行うという状況が続いていたのです。

そこでPEACEは、幼稚園・職業訓練施設として使える建物を1棟建設することで、「小学校卒業まで学べるコミュニティづくり」に貢献しようと、100万円を目標に協力者を募ることにしました。

僕さる

～僕たちはフットサルで

世界を変える事ができる！？～

目標達成のために2013年度に取り組んだ活動の1つが、チャリティフットサル大会「僕さる」です。6月22日、京都市内にあ

るフットサルスクエア京都南にて開催し、8チーム、約70名にご参加いただきました。参加してくださったのは、京都の大学サークルや地域チームの方々です。イベントの収益52,477円が校舎建設の資金となったほか、出場者の方々からスパイクとトレーニングウェア、1,926円のご寄付をいただきました。

2013年度の経験を生かし、2014年5月末には第二回チャリティフットサル大会を開催しました。フットサルを楽しみながら、フィリピンの火山被災地や、子どもたちの状況についても知っていただくことができ、充実したイベントとして成長しています。

誰もが初等教育を受けられるように

そしてついに2014年6月、ミトラ地区に新たな校舎を建設することができました！PEACEがイベント開催や募金活動などで集めた資金は493,698円。そのほか、大阪コミュニティ財団からも助成金を頂くことができ、総額1,423,698円を集めることができました。これにより建設された2教室の校舎は、現在、幼稚園および社会教育センターとして使われています。

新たな目標に向かってスタート

こうして教室不足は解決しました。しかし今後も、幼稚園の教員人件費や教材費といった運営費(年間約38万円)が必要になります。そこで今後は、運営費を集めることを新たな目標とし、さまざまなチャリティイベントに取り組んでいくことにしました。

私たちはチーム全体のモチベーションを重視し、イベントの際は利益ばかりにとらわれず、参加者や私たち自身も楽しめるよう心がけています。2014年度は、さらに新たなイベントとして、バーベキューや、自転車で旅をしながら寄付を募る「チャリ旅チャリティ」などを計画しています。



日本大学で開催された、スタディツアー合同説明会。100 名以上の来場者に、アクセスのスタディツアーを紹介しました。

関西を離れても、仕事が忙しくても、フィリピンとつながっていただけるように

京都を中心とした関西エリアで活動することが多いアクセスですが、東京での活動も少しずつ発展しています。メンバーは、就職を機に関西から関東に引っ越した会員・スタッフの方々、そして関東在住のスタディツアー参加者などです。事務所や職員などは置いていませんが、5~6 人のメンバーが月 1~2 回のペースで集まり、活動を続けています。少しでもフィリピンとつながり続けていきたい、という方の参加をいつでも歓迎しています。

東京での、アクセス広報のプラットフォームをめざして

2013 年度の東京支部の活動は大きく二つありました。

- ①スタディツアー合同説明会@東京
- ②国際協力イベント「グローバルフェスタ」への出展

双方とも、昨年に続いての参加となり、東京支部の活動の柱となっています。継続的な活動により、一層、東京支部がアクセスの東京での活動や広報のプラットフォームになっていければと思っています。

アクセスで国際協力への一歩をスタディツアー説明会

スタディツアー合同説明会は 6 月に昨年と同様、日本大学にて開催されました。約 20 の参加団体と、100 名以上のスタディツアーに興味がある学生、社会人の来場者が集まりました。そこで、来場者全体へ向けてアクセスのスタディツアーについてのプレゼンテーションを行い、その後、ブースでの詳しい説明を行うことができました。

様々な NGO 団体が参加していましたが、やはりアクセスで国際協力への第一歩を踏み出してほしいという気持ちから自然と説明に力が入りました。来場者には、スタディツアーに参加することを決めて来ている人も、決めかねている人もいたので、まずはこ

のイベントで一人でも多くの来場者の方がスタディツアーに興味を持ち、参加に踏み切ってくれていたらと思います。

国内最大級の国際協力イベント グローバルフェスタ出店

グローバルフェスタは、毎年 10 月第一週に日比谷公園で行われており、国内最大級の国際協力イベントと言われています。昨年のグローバルフェスタでは、二日間で約 78,000 人が来場。東京支部は今年も販売ブースを出店し、アクセス・フェアトレード事業部の商品を販売しました。二日間で 52,150 円を売り上げることができました。また、ブースではアクセスの事業の説明や、ココロ便のチラシ配りなど広報活動も行っており、東京でアクセスの活動を知ってもらうことができました。

新しい挑戦に取り組む年に

2014 年度は、上記 2 つの活動に加え、京都で開催しているカフェイベントを東京でも開催していこうと思っています。まだアクセスのことを知らない方々、そして関東のアクセス OB・OG をより巻き込んでいけたらと思います。



グローバルフェスタにて、フェアトレード商品を販売する東京支部メンバー

2013年度決算報告

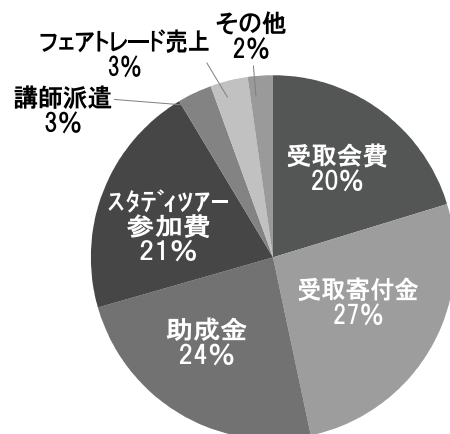
活動計算書

自2013年4月1日至2014年3月31日

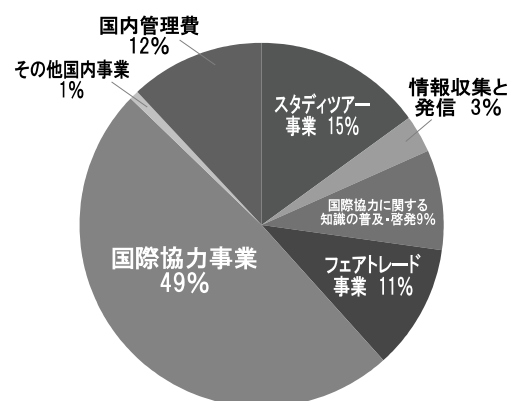
(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	680,000	
賛助会員受取会費	846,000	
講読会員受取会費	18,000	
プロジェクト会員受取会費	2,843,000	4,387,000
2. 受取寄付金		
一般受取寄付金	2,445,859	
事業受取寄付金	3,235,992	5,681,851
3. 受取助成金等		
受取民間助成金	5,130,000	5,130,000
4. 事業収益		
途上国の現実に学ぶ事業	4,507,010	
国際協力に関する知識の普及・啓発事業	660,990	
フェアトレード事業	713,877	
国際協力事業	405,613	
その他国内事業	85,432	6,372,922
5. その他収益		
受取利息	1,471	
雑収益	865	2,336
経常収益計		21,574,109
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費		
給料手当	3,377,136	
ボランティア謝礼	105,714	
通勤費	183,600	
法定福利費	443,624	
人件費計	4,110,074	
(2)その他経費		
海外事業費	11,341,759	
売上原価	163,073	
25周年事業費	259,105	
広報宣伝費	232,520	
印刷製本費	205,813	
旅費交通費	644,596	
通信運搬費	334,166	
地代家賃	522,000	
水道光熱費	112,423	
出展費用	53,697	
賃借料	2,900	
保険料	18,760	
減価償却費	24,060	
消耗品費	216,462	
雑費	11,750	
その他経費計	14,143,084	
事業費計		18,253,158
2. 管理費		
(1)人件費		
給料手当	1,248,464	
通勤費	125,320	
法定福利費	72,217	
人件費計	1,446,001	
(2)その他経費		
業務外注費	110,255	
印刷製本費	77,175	
旅費交通費	184,412	
通信運搬費	127,070	
地代家賃	174,000	
水道光熱費	37,474	
賃借料	2,000	
新聞図書費	2,030	
消耗品費	77,960	
諸会費	70,000	
租税公課	74,263	
支払手数料	124,575	
その他経費計	1,061,214	
管理費計		2,507,215
経常費用計		20,760,373
当期経常増減額		813,736
III 経常外費用		
過年度損益修正損		
経常外費用計		
当期正味財産増減額		848,602
前期繰越正味財産額		9,244,534
次期繰越正味財産額		10,093,136

収入内訳



支出内訳



※当該年度は特定非営利活動に係る事業以外の事業については実施していません。

貸借対照表 2014 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
現 金	186,926	未 払 金	67,680
普 通 預 金	8,509,802	前 受 金	892,771
現金・預金 計	8,696,728	預 り 金	9,420
未 収 金	205,424	未払法人税等	70,000
売上債権 計	205,424	流動負債 計	1,039,871
棚卸 資産	954,795	負債の部合計	1,039,871
貯 蔵 品	116,499	正 味 財 産 の 部	
棚卸資産 計	1,071,294	【正味財産】	
前 渡 金	911,441	前期繰越正味財産額	9,244,534
その他流動資産 計	911,441	当期正味財産増減額	848,602
流動資産合計	10,884,887	正味財産 計	10,093,136
【固定資産】		正味財産の部合計	10,093,136
什器 備品	48,120		
有形固定資産 計	48,120		
保 証 金	200,000		
投資その他の資産 計	200,000		
固定資産合計	248,120		
資産の部合計	11,133,007	負債・正味財産の部合計	11,133,007

財務諸表の注記 (2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日)

- 重要な会計方針
財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。
(1) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産は、定額法で償却をしています。
(2) 棚卸資産の評価基準および評価方法
棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は先入先出法によっています。
- 事業別損益の状況
事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	途上国の現実に 学ぶ事業	情報収集・発信 事業	国際協力に 関する知識の 普及・啓発事業	フェアトレード事業	国際協力事業	その他国内事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益									
1. 受取会費	0	0	129,000	182,000	2,532,000	0	2,843,000	1,544,000	4,387,000
2. 受取寄付金	0	0	28,000	0	3,207,992	68,138	3,304,130	2,377,721	5,681,851
3. 受取助成金等	0	0	400,000	500,000	2,280,000	0	3,180,000	1,950,000	5,130,000
4. 事業収益	4,507,010	0	660,990	713,877	405,613	85,432	6,372,922	0	6,372,922
5. その他収益	0	0	0	0	0	0	0	2,336	2,336
経常収益計	4,507,010	0	1,217,990	1,395,877	8,425,605	153,570	15,700,052	5,874,057	21,574,109
II 経常費用									
(1) 人件費									
給料手当	281,091	281,091	1,037,873	1,078,145	590,824	108,112	3,377,136	1,248,464	4,625,600
ボランティア謝礼	0	0	0	105,714	0	0	105,714	0	105,714
通勤費	11,542	11,542	42,613	96,598	16,866	4,439	183,600	125,320	308,920
法定福利費	39,230	39,230	144,850	147,891	57,333	15,090	443,624	72,217	515,841
人件費計	331,863	331,863	1,225,336	1,428,348	665,023	127,641	4,110,074	1,446,001	5,556,075
(2) その他経費									
海外事業費	2,400,000	0	0	311,756	8,630,003	0	11,341,759	0	11,341,759
売上原価	0	0	0	146,489	16,584	0	163,073	0	163,073
25周年事業費	0	0	259,105	0	0	0	259,105	0	259,105
業務外注費	0	0	0	0	0	0	0	110,255	110,255
広報宣伝費	0	0	89,684	28,295	114,541	0	232,520	0	232,520
印刷製本費	45,964	127,208	8,923	430	0	23,288	205,813	77,175	282,988
旅費交通費	201,439	400	52,970	82,212	303,315	4,260	644,596	184,412	829,008
通信運搬費	23,652	201,964	27,068	43,251	36,453	1,778	334,166	127,070	461,236
地代家賃	36,540	31,320	114,840	114,840	214,020	10,440	522,000	174,000	696,000
水道光熱費	7,869	6,746	24,733	24,733	46,092	2,250	112,423	37,474	149,897
出屋費用	2,000	0	8,500	41,797	1,400	0	53,697	0	53,697
賃借料	0	0	2,900	0	0	0	2,900	2,000	4,900
新聞図書費	0	0	0	0	0	0	0	2,030	2,030
減価償却費	0	0	0	24,060	0	0	24,060	0	24,060
消耗品費	24,405	11,187	41,119	58,406	77,617	3,728	216,462	77,960	294,422
保険料	15,380	0	0	3,380	0	0	18,760	0	18,760
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	70,000	70,000
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	74,263	74,263
支払手数料	0	0	0	0	0	0	0	124,575	124,575
雑費	0	0	10,720	1,030	0	0	11,750	0	11,750
その他経費計	2,757,249	378,825	640,562	880,679	9,440,025	45,744	14,143,084	1,061,214	15,204,298
経常費用計	3,089,112	710,688	1,865,898	2,309,027	10,105,048	173,385	18,253,158	2,507,215	20,760,373
当期経常増減額	1,417,898	△ 710,688	△ 647,908	△ 913,150	△ 1,679,443	△ 19,815	△ 2,553,106	3,366,842	813,736
III 経常外費用									
過年度損益修正損	0	0	0	△ 34,866	0	0	△ 34,866	0	△ 34,866
IV 当期正味財産増減額	1,417,898	△ 710,688	△ 647,908	△ 878,284	△ 1,679,443	△ 24,239	△ 2,518,240	3,366,842	848,602

※「途上国の現実に学ぶ事業」・・・スタディツアー事業

- 使途等が制約された助成金等の内訳
使途等が制約された助成金等の内訳は以下の通りです。
当期正味財産は10,093,136円、そのうち1,898,530円は使途が制約される財産です。したがって、使途が制約されていない正味財産は8,194,606円となります。

(単位:円)

内 容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備 考
心のそしな事業	68,560	1,326,000	1,394,560	0	
事業指定寄付金(台風31号被災者支援)	0	1,140,503	330,475	810,028	
事業指定寄付金(SM火災被災者支援)	0	101,616	101,616	0	
世界の人のためのJICA基金	0	212,403	212,403	0	
今井記念海外協力基金助成金	0	880,000	880,000	0	
アークスNGO組織強化支援	0	1,800,000	1,800,000	0	
庭野平和財団活動助成金	0	200,000	200,000	0	
地球市民財団助成金	0	500,000	500,000	0	
情報労連 愛の基金 助成金	0	150,000	150,000	0	
夢屋基金助成金	0	400,000	160,000	240,000	2014年度事業に係る部分は前渡金として資産計上
三井住友銀行ボランティア基金 寄付金	0	1,000,000	333,333	666,667	2014年度事業に係る部分は前渡金として資産計上
関西地域NGO助成プログラム	0	200,000	18,165	181,835	
合 計	68,560	7,910,522	6,080,552	1,898,530	

2013年度決算報告

財産目録

2014年3月31日現在

《資産の部》			(単位:円)
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金	186,926		
事務局	(49,703)		
ピナツボ支援チーム	(3,000)		
スモークマウンテン地区支援チーム	(17,750)		
フェアトレード事業部	(101,360)		
開発教育支援チーム	(15,113)		
普通預金	8,509,802		
三菱東京UFJ銀行京都中央支店	(2,660,876)		
三菱東京UFJ銀行京都支店(FT)	(356,074)		
ゆうちょ銀行	(1,155,395)		
関西アーバン銀行藤森支店(FTT)	(1,326,917)		
近畿労働金庫伏見支店	(433,590)		
郵便振替	(2,576,214)		
三菱東京UFJ銀行出町支店(FTT)	(736)		
現金・預金計	8,696,728		
(売上債権)			
未収金	205,424		
3月会費引落翌月入金分JCB	(201,000)		
フェアプラス販売手数料	(4,424)		
売上債権計	205,424		
(棚卸資産)			
棚卸資産	954,795		
FT商品	(891,264)		
FT商品(クリアファイル)	(28,067)		
FT商品(タオル)	(35,464)		
貯蔵品	116,499		
書き損じハガキ	(87,574)		
切手等	(28,925)		
棚卸資産計	1,071,294		
(その他流動資産)			
前渡金	911,441		
夢屋基金助成金送金分	(240,000)		
三井住友銀行ボランティア基金送金分	(666,667)		
ACCESSファイル FT事業部前渡金	(4,774)		
その他流動資産計	911,441		
流動資産合計		10,884,887	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
什器備品(FT事業部PC)	48,120		
有形固定資産計	48,120		
(投資その他の資産)			
保証金	200,000		
投資その他の資産計	200,000		
固定資産合計		248,120	
資産の部合計		11,133,007	
《負債の部》			
【流動負債】			
未払金	67,680		
事務所家賃4月分	(58,000)		
3月分業務交通費	(9,680)		
前受金	892,771		
奨学金次年度分	(882,141)		
会費前受分	(10,000)		
その他(FT事業部宅急便)	(630)		
預り金	9,420		
源泉所得税	(9,420)		
未払法人税等	70,000		
流動負債計		1,039,871	
負債の部合計		1,039,871	
正味財産		10,093,136	

監査報告書

監査報告書	
特定非営利活動法人アクセス ー共生社会をめざす地球市民の会 理事長 新聞 純也 殿	
平成 26 年 6 月 7 日	
監事	渡邊 大
私は、平成 25 年度（平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで）における特定非営利活動法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会の業務及び財産の状況について監査を行いました。	
その結果、業務については、不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないことが認められました。また財産の状況については、NPO 法人会計に準拠して、財務諸表等に適正に表示されているものと認められました。	
以上、報告します。	

2014 年度 計 画

フィリピン

2014 年度事業の概要

2014 年度フィリピンでは、5 つの事業地での活動を継続し、プログラム参加者の増加、組織化の強化、活動の質の向上をすすめます。また、日本とともに「アクセスの 10 年後のビジョン」を描く議論をすすめ、それを踏まえた次の 3 ヵ年計画(2014～2016 年度)を 1 年かけて策定します。

事業地ごとの取り組み課題と目標

2014 年度のフィリピン事業は、2013 年度の事業の中で現れた課題の解決を図りつつ、下記のようにこれまでの事業を継続するとともに、いくつかの新規事業を始めます。

1. ペレーズ地区

奨学金プログラムでは、事業実施村を 3 つから 8 つに拡大。奨学生会や保護者に働きかけ、「子どもの保護に関する村評議会」の活性化を通じた、子どもに優しいコミュニティの実現をめざし、活動を継続します。

フェアトレードプログラムでは、責任者を新たに配置し、生産者の能力強化、生産者の協同組合化、販路の拡大をめざします。

マイクロファイナンスでは、メンバーの経営能力向上セミナーを実施すると同時に、インパクト調査を実施します。

2. スモーキーマウンテン地区

地区全域の立ち退きが行われたことに伴い、保健衛生プログラムを終了します。青年会プログラムについては、スモー

キーマウンテン地区周辺に暮らす若者を対象に、スポーツや文化活動を通じた組織化を継続します。

スモーキーマウンテン地区での事業終了に伴い、隣接する地区の状況を調査し、今後の事業方針を検討します。

3. ピナツボ地区

今年度は、助成金および PEACE チームの活動を通じて集めた寄付金を活用し、幼稚園年少組および社会教育センターを建設・運営します。また、給食事業を足場に組織してきた PTA を、「女性と子どもの権利の推進機関」として発展させられるよう後押しするほか、奨学金制度の導入を検討します。

4. アペロクルス地区

奨学金事業を継続します。

5. パヤタス地区

1994 年にアクセスが建設した幼稚園にて、週 5 日の授業、週 3 日の給食、月 1 回の保護者会ミーティングとセミナーを実施します。また、地域の立ち退き問題に対処するため、パヤタス地区内で活動する日系 NGO との連携を進めます。

6. 管理部門

次の諸項目を重点課題と位置づけ、取り組みます。

- 1) 10 年後のビジョンと、それを達成するための事業計画・スタッフ育成計画の作成
- 2) 次世代の指導者候補の育成
- 3) 給与体系の見直しを含めた労働環境の改善
- 4) 運営規則の改訂

ペレーズ地区	13 年度実績	14 年度予定
奨学金・給食プログラム	111 人	150 人
フェアトレードプログラム	10 人	10 人
青年会プログラム	20 人	20 人
マイクロファイナンス(小額融資)プログラム	80 人	100 人

スモーキーマウンテン地区	13 年度実績	14 年度予定
保健衛生プログラム	初期治療／結核治療 ヘルスワーカー育成	2,150 人 11 人
青年会プログラム	30 人	30 人
強制立ち退き問題への取り組み	約 6,500 人	

ピナツボ地区	13 年度実績	14 年度予定
教育・給食プログラム	小学校 幼稚園	83 人 35 人
社会教育 主婦・青年		10 人
カラバオ供給プログラム	3 家族	3 家族

アペロクルス地区	13 年度実績	14 年度予定
奨学金プログラム	16 人	6 人

パヤタス地区	13 年度実績	14 年度予定
デイケアセンターの運営	27 人	50 人

日本

2014年度事業の概要

2014年度はフィリピンとともに、「アクセスの10年後のビジョン」を描く議論を継続し、それを踏まえた次の3ヵ年計画(2014～2016年度)を1年かけて策定します。円安により、支出の増大が避けられない厳しい1年になることが予想されますが、長期的なビジョンを掲げることで、会員・スタッフ・職員・理事などが団結して前向きに課題に取り組める環境づくりを進めます。

また、より多くの人にアクセスを知ってもらい、ともに活動を創ってもらえるよう、スタディツアー以外のルートでの認知度向上に取り組む、入会、ボランティア参加、寄付などにつなげます。

1. 会員・支援者とのコミュニケーション

ニュースレター、年次報告書、メールマガジン、Facebookなどを通じて、会員・支援者の皆さまに、フィリピンの現状や貧困の原因、アクセスの取り組み、皆さまのご支援がどのような成果に結びついたのか・・・といったことをお伝えします。また、地域や職場でできる国際協力の方法なども提案していきます。

2. 「伝わる情報発信」と、参加しやすい仕組みづくり

一人でも多くの方に活動に参加・協力していただけるよう、以下のような取組みを工夫しながら進めます。

【伝わる情報発信】

- 1) Facebookを活用したこまめな情報発信
- 2) マスメディアを活用した情報発信
- 3) 多様な団体とのコラボ、連携イベントの実施
- 4) 関西地域でのカフェイベントの継続開催
- 5) 「伝わる情報発信」にするための、学習と工夫

【参加・協力しやすい仕組み作り】

- 1) 書き損じハガキ収集キャンペーンの継続
- 2) 中古CD・DVD・本・ゲームを集めてフィリピンを支援する「ココロ便」(ブックオフとの連携事業)の継続
- 3) 奨学金サポーターの継続募集
- 4) 登録しやすいメールマガジンシステムの導入
- 5) クレジットカード決済システムの導入
- 6) マンスリーサポーター制度の導入
- 7) 支援の意義や効果が実感しやすいキャンペーンの企画
- 8) 社会人でも参加しやすい活動づくり(翻訳チームの新規設立など)

フィリピンの現状、アクセスの取組みをわかりやすく発信するだけでなく、活動の意義や成果、直面している課題などをリアルに伝え、「一緒に解決していきたい」「自分にできることからやってみよう」と感じていただけることをめざします。そのために、職員もセミナー参加や関連書籍を読むなどして学習をすすめ、情報発信と活動の場づくりのあり方の改革に取り組めます。

3. 理事会・事務局によるチーム活動への支援

ボランティアスタッフによって行われているチームの活動は、当会のミッションである「エンパワメント」と「地球市民形成」の実践の場です。しかし2010年度以降、チーム活動へのサポートが不十分な状態が続いています。2014年度は、事務局スタッフの業務内容や、情報共有のあり方の見直しと合わせ、理事会・事務局によるチーム支援の改善に取り組めます。

4. 地球市民教育の更なる強化

フィリピンの貧困の現状、貧困や戦争の原因、そしてそれらの問題をアクセスがどのように解決しようとしているのか。そういったことを発信し、共感してくれる人を増やしていくのが「地球市民教育」です。2014年度は、職員の「伝える技術の向上」に取り組み、講義・講演からの活動参加につなげます。また、11月に社会人でも参加しやすいスタディツアーとして、「子どもたちに会いに行く旅」というスタディツアーを企画します。

5. フェアトレード事業

フェアトレード事業3ヵ年計画の2年目にあたる2014年度は、売上げ目標を132万円とし、日比ともにスタッフ体制を強化して、以下の課題に取り組めます。

- 1) 原材料供給ルートの確保
- 2) 新商品開発(10種)
- 3) 取引先拡大(20店舗)
- 4) Facebookによる広報
- 5) イベント出展による商品販売・委託販売(各15件)

6. その他

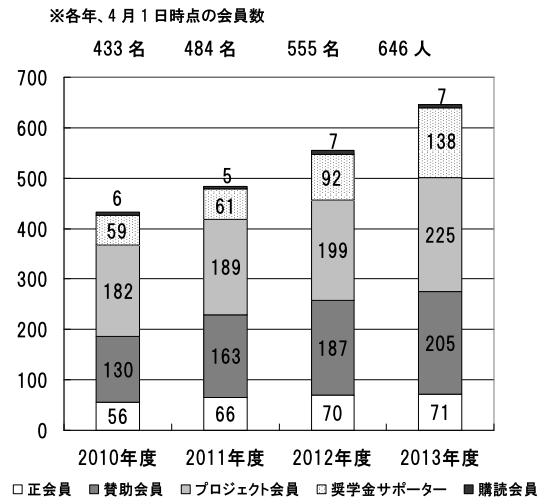
以上の取組みを支える基盤を強化し、持続可能な組織を実現するために、以下のような取組みを進めます。

- 1) 助成金の申請
- 2) 他団体とのネットワーキング
- 3) 認定NPO法人格取得のための準備
- 4) アクセス・フィリピンへの運営サポート

会員・寄付者（2013年度）

会員サポーター数	全 646 名（2014 年 3 月末）
寄付協力（現金）	個人 104 名、グループ・学校・法人等 22 件
書き損じハガキ	個人・グループ・法人等 52 件／3,223 枚
ココロ便	本・CD・DVD・ゲーム：個人・法人等 41 件／58,356 円分
その他物資	文房具、衣類、未使用のテレホンカード・金券・切手など 個人・学校・法人等 23 件

アクセスの活動は、会員・支援者の皆さまお一人お一人のご理解とご協力のもとに成り立っております。2013 年度にいただいたご支援・ご協力に、あらためてお礼申し上げます。



ご支援いただいた助成団体（2012年度以降）

公益信託 今井記念海外協力基金「国際協力NGO助成」

貧困層の子どもたちを対象とした奨学生プログラムの奨学生会・保護者会のエンパワメントを通じた、健康な家族生活と子どもにやさしいコミュニティの建設事業（2012 年、2013 年）

独立行政法人国際協力機構「世界の人々のための JICA 基金」

【委託事業】フィリピンの貧しい農漁村におけるマイクロクレジット事業と女性たちのエンパワメント（2012 年～2013 年）

特定非営利活動法人アーユス仏教国際協力ネットワーク

NGO組織強化支援事業（2013 年、2014 年）

パナソニック株式会社／特定非営利活動法人サービスグラント

Panasonic NPO サポート プロボプログラム／事業計画立案サービスグラント プロジェクト型助成（2013 年）

一般財団法人まちづくり地球市民財団

貧農村地区ペレーズにおけるフェアトレードプログラム強化事業（2013 年～2014 年）

公益財団法人庭野平和財団「活動助成」

創立 25 周年記念事業「国際協力 NGO とエンパワメントの可能性を問い返す」（2013 年～2014 年）

情報産業労働組合連合「情報労連 愛の基金」2013 年

公益財団法人公益推進協会「第三回夢屋基金」

ゴミ捨て場周辺コミュニティにおける教育支援（2013 年～2014 年）

公益財団法人日本フィナンシャル協会「三井住友銀行ボランティア募金」

貧農村におけるマイクロクレジットと女性たちの経営力向上事業（2013 年～2014 年）

関西 NGO 協議会・真如苑共催「関西地域 NGO 助成プログラム」

国際協力きっかけづくりカフェイベント（2013 年～2014 年）

公益財団法人大阪コミュニティ財団「がっこう基金」

ピナツボ火山土石流被災地での就学前教育・社会教育事業（2014 年）

日本化学産業労働組合連合会「スマイル by JEC」

ゴミ捨て場周辺コミュニティにおける教育支援（2014 年）

ご協力いただいた企業・学校・団体等（2013年度）

近畿労働金庫：ペレーズ・ピナツボ地区の子どもたちに教育と給食を提供する「心のそしな」プロジェクト（2010 年～）
ブックオフコーポレーション株式会社：中古品の寄付によりフィリピンを支援する「ココロ便」プロジェクト（2013 年～）

株式会社キッズドリーム、三彩商事株式会社、古着屋KINJI、未来洞、有限会社ウエストコースト、京都市立修学院中学校、NGO 自敬寺、豊中市立第八中学校、京都市立伏見工業高校、高松市立林小学校、かみひとネットワーク京都、Vegans Café and Restaurant、浄土真宗本願寺派北豊地区門司組、バザールカフェ、BE-FOREST、関西外国語大学学園祭実行委員会、神戸ソナクラブ、喫茶うずら、立命館国際協力サークル Ricoppine、田辺三菱製薬工場（株）製造部第二課、田辺三菱製薬労働組合吉富ブロック、龍谷大学国際文化学部日照会、龍谷大学国際文化学部斎藤ゼミ、毎日新聞愛の手チャリティーオークション、多目的カフェかぜのね、生活協同組合コープ自然派京都、生活協同組合コープ自然派ピュア大阪（順不同）

受賞歴

公益財団法人かめのり財団「第 5 回かめのり賞」

「日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献」（2011 年）

社会福祉法人京都市社会福祉協議会表彰

「福祉のまちづくりに貢献」（2013 年）

特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター「第 8 回パートナーシップ大賞グランプリ」

「NPO と企業の優れたパートナーシップ事例を選出し表彰する」（2011 年）

加盟団体・ネットワーク等（2013年度）

特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会（正会員／副代表理事）、特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター（正会員）
日比 NGO ネットワーク（正会員）、京都府国際交流団体情報ネットワーク「kokoka 国際交流団体ねっと」（会員）
京都市市民活動総合センター（運営委員）

役員・スタッフ

2014年10月時点

【日本理事会】

理事長	新開 純也	元株式会社タカラブネ社長
常務理事	森脇 祐一	事務局
理事	江口 慶明	関西大学生生活協同組合専務理事
理事	河西 実	NPO 法人フェア・プラス事務局長
理事	片岡 卓三	医師
理事	菊池 光造	京都大学名誉教授
理事	崎山 政毅	立命館大学教授
理事	杉山 遼	特別支援学校 教員
理事	千田 智之	株式会社ソフトバス代表取締役
理事	田中 雅規	株式会社高島屋社員
理事	塚本 誠一	弁護士
理事	中本 式子	元生活クラブ京都エルコープ理事長
理事	野田 沙良	事務局
理事	廣瀬 昌代	同志社大学大学院生
監事	渡邊 功	公認会計士

【日本事務局】

事務局長	野田 沙良
事務局員	長谷川 孝史
事務局員	島田 純子
事務局員	森脇 祐一
インターン	上西 真柚子
インターン	織田 耕次

【フィリピン理事会】

理事長	カルメンシータ・カラグタグ（メンチ）
理事	ジョスエ・ロヨラ（チト）
理事	アイダ・カルロス
理事	石川 雅国
理事	カルメリータ・モランテ

【フィリピン運営委員会】

ロサリナ・クラマー（リサ）、石川雅国、アルヴィン・マキナノ

【フィリピン事務局】

事務局長	ロサリナ・クラマー（リサ）
事務局員	石川 雅国
事務局員	マリエル・キム・ファット・オモ（イエン）
事務局員	マーク・ジェイソン・オモ（ジェイソン）
事務局員	クリスター・ジョン・ララ（ジェリック）
事務局員	アルヴィン・マキナノ
マイクロファイナンス担当	アドニス・パハリヨ
マイクロファイナンス担当	ライアン・サルバドル
インターン	須田 怜美

【フィリピン事業部】

ペレーズ地区	アルキメデス・ソリエサ（アーチ） ジョアン・リャニータ アビケル・エスカミリヤス（アビー） リザ・メルカド
ピナツボ地区	ロランド・カンデラリオ（ランド） アイリーン・ブラヤグ ジェネット・アルパロ
トド・スモ・キマウンテン地区	ジョマール・デ・ヘスス
パヤタス地区	アリシア・グティエレス（アリス） マリテス・ベリノ（テス） テレサ・オングダ

事業部・チーム・支部・委員会 ボランティア

【フェアトレード事業部（FT 事業部）】

廣瀬昌代、田中雅規、橋詰佳穂、瀧口知佳、十一智教、村松優紀、田中優美子、田中朋子、山本あずさ、古村和圭子、久保七彩

【開発教育チーム（GET）】

上田佑樹、川島寛久、栗津涼平、白柳飛翔、森井英樹、蛭田彩、新谷田奏子、三戸部香帆、池辺沙奈枝、南波華奈

【アペロクルス・ペレーズ支援チーム（FACT）】

松岡春香、長岡文音、此和愛佳、近藤沙紀、小出侑季、斉藤岳、森山結愛、寺川千晶、久本雅人、桂山詩帆、上本英文、倉崎龍

【スモークマウンテン支援チーム（FIT）】

杉山遼、氏田楓、富田沙樹、野越玲奈、岡崎沙也香、有馬千智、木村諒子、谷和之、中川結理、中野美咲、吉川舞、岸田千加子、猪野順子、駒井真帆、橋本祐希、松岡春香、三村優奈、山本彩加、赤井美賀子、東口壽男

【ロラ支援チーム（LOLA）】

左近文子、中井美彩、河内山芽以、氏田萌

【ピナツボ支援チーム（PEACE）】

氏田楓、東口壽男、小笹誠一、河内山芽衣、南裕子、金川小夏、早田咲希、津曲敦子、浅堀きらり

【東京支部】

佐藤真彦、物部玄朗、平井理代、高橋美輝、小清水麻美、石塚葉月

【広報委員会】

高島直美、吉田三奈美、高橋諭吉、森岡陽菜、岡部洋子

【カフェイベント実行委員会】

矢本早紀、小林真莉、明主那生、松岡春香、田所祐香

【翻訳ボランティアチーム】

平井孝子、榎本桂子、坂野智美、大原理依子、岡崎眞也、馬淵杏、福廣実保、古村和圭子、木村龍一、服部舜也、藤井陽子

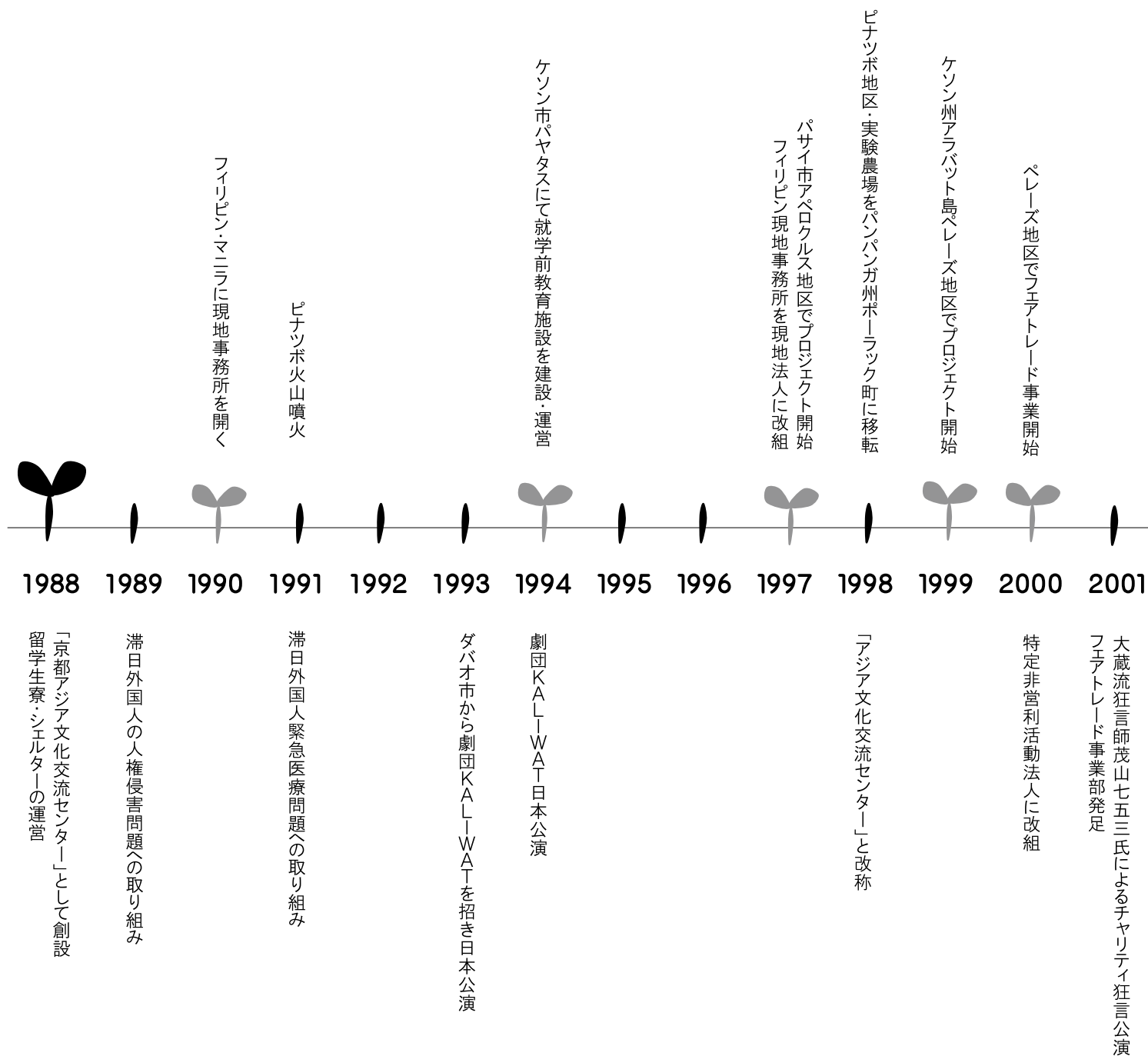
【事務局ボランティア】

片岡正美、西川富雄、窪田静太郎、小峠忠義

（2014年7月時点）

アクセスのあゆみ

1988 - 2014



アクセス

【わたしたちがロゴに込めた想い】

みんなで考え、話し合うことを通じて、活動を創っていく。

そんなアクセスのスタイルを表現したくて、ふきだしのようなデザインにしました。

活動を通じて支えあう関係をつくりだし、その中で笑顔をつくりだしていきたい。

そんな願いを込めて、ふきだしがにっこり笑っているようなデザインにしました。

designed by musubi design

1

十年後の未来を描く年に

設立25周年

ケソン市パヤタスにて、就学前教育施設の運営を再開

ペレーズ地区でマイクロファイナンス事業開始

ピナツボ地区でカラバオ(水牛)供給プログラム開始

ペレーズ地区で奨学金プログラム、有機養豚・菜園プログラム開始

スモークーマウンテン地区で女性プログラム開始

ピナツボ地区で小学校校舎増築

ピナツボ地区で小学校校舎・井戸を建設

ピナツボ地区で就学前教育施設の運営開始

スモークーマウンテン地区で青年会設立

マニラ市トンド地区スモークーマウンテンで事業開始

アペロクルス青年会・ペレーズ青年会設立

十年後の未来を描く年に

設立25周年

ACTチームとFACEチームが合併し、FACTチームに

「パートナーシップ大賞」グランプリ受賞

(特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター)
第五回かめのり賞 受賞(公益財団法人かめのり財団)

PEACE(ピナツボ支援チーム)発足

LOLA(ロラ支援チーム)発足

FIIT(スモークーマウンテン支援チーム)発足

「アクセス・共生社会をめざす地球市民の会」と改称

ペレーズ支援チーム発足

ACT(アペロクルス支援チーム)発足

BYPSS(ペレーズ家庭養豚奨学プログラム支援チーム)発足

GET(開発教育チーム)発足

9 8 8 - 2 0 1 4



Gusto ko pong makapag tapos ng pag-aaral
para po makakuha po ako ng
magandang trabaho at
para po matulungan ko ang aking magulang.
iyon lang po.

学校を卒業して、良い仕事をみつけ、
家族を支えたい。
それが、私の夢です。
(フィリピン・ペレーズ地区の青年会メンバーの言葉)



市民のネットワークが貧困のない社会を創る
特定非営利活動法人 アクセスー共生社会をめざす地球市民の会
612-0029 京都市伏見区深草西浦町4-78 村井第一ビル2F 7号室
TEL/FAX 075-643-7232 E-MAIL acce@sannet.ne.jp
<http://www.page.sannet.ne.jp/acce/>